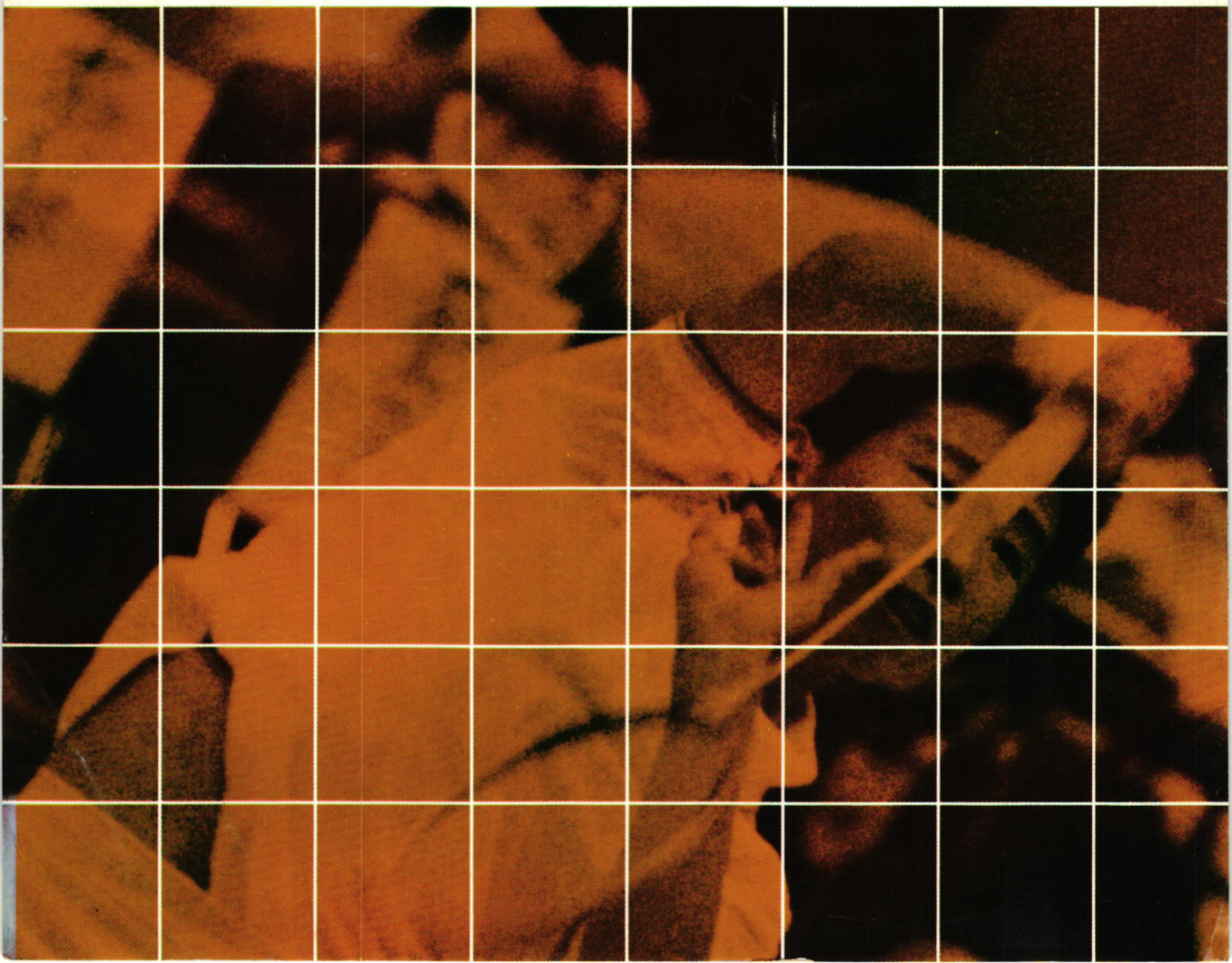
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和52年9月1日発行（毎月1回1日発行第9巻第9号）

バドミントン界

9

日本バドミントン協会　The Badminton World No. 95　1977



ラケットショップ元町

●渋谷店



渋谷区渋谷1—25—6 〒150
☎03(400)7390

●横浜店



横浜市中区元町5—203 〒231
元町スカイビル5階
☎045(651)2020

秋です。
読書はあとで、
金田一さん。



バドミントン9

SEP. 1977

——全国高等学校総合体育大会・
第28回全国高等学校バドミントン選手権大会詳報——

比叡山、四条畷に栄誉 …… 2
涙のむ金沢市工、新潟青陵
西山、無敵の三冠王 …… 4
準優勝には漆原、樋岡・吉村
原口、平・河村で独占 …… 6
四条畷、三年連続六度目三冠の偉業
●優勝校インタビュー —— 比叡山高校・四条畷学園高校
県内一体となって!!・鬼より怖い……? …… 8
栄光のあと …… 11

新・ガッツ小島の体当り実戦教室[5] —— 小島一平
全日本制覇へ欲 …… 28
エツコのバドミントン・ライフ[4] —— 栂野尾悦子
相沢さんと組んでみないか… …… 34

●第7回全国中学生バドミントン大会
男女とも熊本が制覇 …… 30
観戦記——伊藤基記 …… 31

第20回東日本学生選手権大会／ベテランチーム定期戦・宮城×東京 …… 36
第1回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会 …… 37

◎ヨーロッパ情報／14
◎ふりだしに戻った台湾問題／27
◎談話室／39
◎公示／39

☆グラフ —— 全国高等学校総合体育大会から

今月の表紙 **西山博司選手**（滋賀県・比叡山高校）

表紙デザイン・構成＝野間デザイン室
表紙・本文写真＝赤星三樹
（使用カメラ・レンズ，旭光学MX SMC-P-M 50/1.4）

くらしき

比叡山（男子）、四条畷（女子）に栄誉

涙のむ金沢市立工（男子）、新潟青陵（女子）

〝真夏の祭典〟昭和52年度全国高等学校総合体育大会は、岡山県を中心に各競技が開催されたが、第28回全国高等学校バドミントン選手権大会は岡山県倉敷市において、倉敷中央体育館、倉敷天城高校、倉敷南高校、水島中学校の四会場で競技が繰り広げられた。

今年のスローガン〝友よ！清く仲よくたくましく〟のスローガンのもと、8月2日から5日間、灼熱の太陽をはね返す〝ファイト〟が溢れていた。

◆男子団体

▽準々決勝

金沢市工（石川）3―1水島工（岡山）
瓊浦高（長崎）3―2一条高（奈良）
比叡山高（滋賀）3―1日大鶴丘（東京）
高岡商（富山）3―2九州学院（熊本）

▽準決勝

金沢市工 3―0 瓊浦高
坂本 勝木 羽田 楠本 清水 杉本 石崎 橋本
2 0 2 0
竹中 2 ― 1 杉本
（15 17 14 17 / 15 11 14 17）
比叡山高 3―2 高岡商
矢部 松浦 西山 末坂
2 0 2 0
（15 15 7 15 / 10 15 7 15）
沢口 伊尾 山田 釘石
1 2
（15 15 / 3 11）
西山 2 ― 0 末坂
（15 15 / 2 0）
山田 0（キケン）2 伊尾
（15 15 / 3 11）
沢口 0 釘石
（8 10 15 5 / 2 15 15 8）
矢部 2 ― 1 坂本
（キケン）
西山 本田

▽決勝

比叡山高 3―1 金沢市工
（15 15 / 3 11）
沢口 0 釘石
（15 15 / 2 0）
西山 2 ― 0 末坂
（15 15 / 2 0）
山田 0（キケン）2 伊尾
（10 15 7 15 / 15 7 15）
沢口 1 ― 2 釘石
（15 15 / 4 15）
矢部 2 ― 0 末坂
（8 10 15 5 / 2 15 15 8）
西山 1 ― 2 坂本
（キケン）
比叡山高は初優勝

◆女子団体

▽準決勝

四条畷学（大阪）3―0山陽女子（岡山）
千葉学園（青森）3―0真岡女子（栃木）
一条高（奈良）3―1土佐女子（高知）
新潟青陵（新潟）3―1善通寺一（香川）

▽準決勝

四条畷学 3―1 千葉学園
（15 15 / 6 5）
平 北田 2 ― 0 葛西 山下
（15 15 / 3 15）
河村 末兼 2 ― 0 児玉 柳沼
（4 4 / 11 11）
原口 0 ― 2 葛西

▽決勝

四条畷学 3―0 新潟青陵
（15 15 / 6 11）
平 北田 2 ― 0 高野 斎藤
（15 18 / 0 15）
河村 末兼 2 ― 0 井上 桑野
（12 11 / 2 0）
原口 2 ― 0 斎藤
（四条畷学園は3連勝6度目）

（11 11 3 / 6 0）
河村 2 ― 0 柳沼
（15 10 15 11 / 2 15）
高野 斎藤 2 ― 1 阿部 横田
（15 15 13 / 12 15）
井上 桑野 2 ― 0 吉川 中本
（15 11 3 / 0）
高野 2（キケン）0 阿部
新潟青陵 3―0 一条高

坂本、不運のケイレン

初日から白熱した試合を続けてきた男女団体戦も、決勝戦は意外にもあっけなく勝負がついてしまった。

実力伯仲の好試合が予想された男子では、金沢市立工の坂本がダブルスの試合途中で足にケイレンを起こし棄権。第二シングルスも戦わずして落とし、決勝戦らしい盛り上がりを欠いた。第二ダブルスを取っていただけに、しかもオーダーも金沢市立工にとっては願ってもない組み合わせだっただけに、大きなチャンスを失ったといえるだろう。

比叡山はダブルスの矢部・西山、シングルスの西山の強力な切り札を前面に押し立てた作戦が功を奏して勝ち進み、余裕のある試合展開だった。結局はその正攻法が、相手校の反撃する体力、気力を打ち砕く格好となった。決勝戦はそれが端的に現われて明暗をくっきりと分けてしまった。

比叡山はエースを持つ強みと、そのエースを盛り立てた作戦、沢口、山田らの援護射撃という、

チーム一丸となった見事な初優勝だった。

敗れた金沢市工も決勝までは快進撃を続けたが、思わぬアクシデントのためその力を十分に発揮できなかったのは惜しまれる。

高岡商、伝統の粘り

名門・高岡商と優勝候補の一角だった九州学院の準々決勝の激突は、今大会で最も見応えのある熱戦となったが、九州学院のエース宮本にいつもの精彩がなく、伊尾が伝統的な高岡商の団体戦での粘りを見せて勝利を握り、これが大きく、高岡商が九州学院を破る突破口となった。第三シングルスは文字通り雌雄を決する大試合となったが、上げ潮ムードの高岡商・釘石がファイナルゲーム、セッティングの末これを下し、逆転に成功〝団体戦に強い高岡商〟の面目を遺憾なく発揮した。

岡山・水島工も地元の期待を一身に集めてベスト8へ進出。ファイト溢れるプレーは好感が持てた。ほかにも大型選手を集めた北北海道・帯広柏葉、来年が楽しみな日大山形、栃木・今市商、東奥義塾などの好チームの戦いぶりがひときわ目をひいた。

息づく〝一球入魂〟

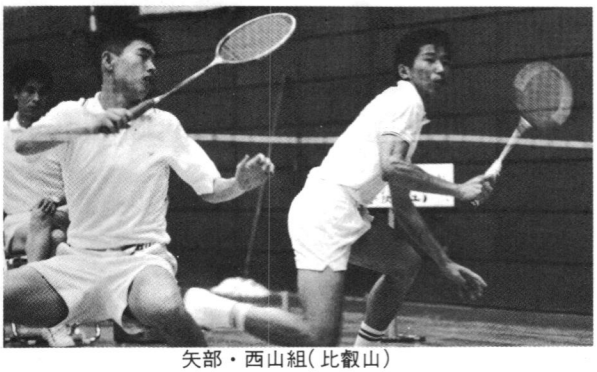
一方、女子は戦前の予想通り四条畷学園が圧倒的な強さを見せ決勝戦までを通して一ポイントしか相手に与えないという破竹の快進撃で3連勝、通算6度目の偉業を成し遂げた。

惜しくも準優勝となった新潟青陵は、第一、第二ダブルスとも四条畷に食い下がって〝打倒四条畷〟の意気込みが感じられたが、第一ゲームを接戦で奪われたのが精神的に影響したのか、第二ゲームはワンサイドゲームとなり、一矢を報いることができなかった。

四条畷学園は昨年のインターハイ、シングルス2位の河村を軸に、全員が小柄ながらよく走り、持てる力を十分に出し切っての優勝で、その勝負に対する厳しさを物語っていた。練習量、トレーニングとも四条畷に匹敵するものをこなした高校はあるに違いない。しかし現実にこれを上回った四条畷には技術、体力の差のほかに、良い意味での伝統に培われた〝一球一球を大切にする気持〟があったようだ。

打倒四条畷の最短距離にあった新潟青陵、そして千葉学園は、攻撃的なプレーを主体にした好選手を揃え、大会を盛り上げた。高度な技術と力強いスマッシュ力は年々、着実に力をつけているようだ。

ベスト8には、善通寺一、真岡女、山陽女などの名門校が名を連ね健闘した。また千葉学園をはじめ、一条、土佐女ら近年急速に伸び続けるチームも数多く、女子団体の勢力分布図にも近い将来、一波乱ありそうな気配も感じられた。


矢部・西山組(比叡山)


河村・末兼組(四条畷)


優勝に大きく貢献した沢口・山田組(比叡山)


惜しくも不運に見舞れた坂本・羽田組(金沢市工)

くらしき

西山、無敵の三冠王

準優勝には漆原(単)、樋岡・吉村(複)

◆男子シングルス

▽準々決勝

西山(滋賀) 2 (15—1, 15—3) 0 千葉(北北海道)

宮本(熊本) 2 (15—10, 15—7) 0 吉村(奈良)

漆原(東京) 2 (15—9, 15—2) 0 勝木(長崎)

喜良(山口) 2 (15—12, 15—4) 0 本石(熊本)

▽準決勝

西山 2 (18—14, 15—9) 0 宮本

漆原 2 (15—3, 15—5) 0 喜良

▽決勝

西山 2 (15—7, 17—14) 0 漆原

◆男子ダブルス

▽準々決勝

玉村 海道 2 (15—7, 17—16) 0 千葉 中川(北北海道)

樋岡 吉村 2 (15—8, 17—16) 0 宮本 本石(熊本)

(奈良) 矢部 西山 2 (15—1, 15—12, 8—15) 1 坂本 羽田(石川)

(滋賀) 丹藤 楠美 2 (15—3, 3—3) 0 坂井 中山(福井)

(青森)

▽準決勝

樋岡 吉村 2 (15—7, 15—9) 0 玉村 海道

矢部 西山 2 (15—12, 15—10, 12—15) 1 丹藤 楠美

▽決勝

矢部 西山 2 (15—3, 15—8) 0 樋岡 吉村

たくましく〝変身〟

男子シングルスは西山に敵無しの感があった。春の高校選抜で受けたひ弱なイメージはすっかり消え、たくましく豹変していた。長身(174cm)から角度のある強力なスマッシュを打つ姿が一回りも二回りも大きく写った。スマッシュの破壊力は群を抜いており、またネット前へのダッシュが素早く正確なために、その攻撃を受け切るものがいなかった。春にはよく顔を出したアキラメも影をひそめ、三冠王としての風格が十分だった。

決勝戦では、さすがに団体、個人戦とフルに戦ってきたせいか、スタートで大きく出遅れ、一時は11—5と大きく漆原にリードを許したが、じりじりと挽回をり後半はスマッシュを連続して叩き込み、見事に主導権を握った。第二ゲームでも最後の力をふりしぼるように攻撃で押しまくり、漆原につけ入る隙を与えなかった。

漆原も長身を利してよく決勝へ進出したが、攻撃力に今一歩の鋭さがなかったようだ。しかし高い打点からのカット、クリアーは正確に相手の逆をついて試合巧者らしい雰囲気を持っていた。

二年生もがん張る

戦前に優勝候補の一角として挙げられていた宮本は、団体戦のシングルスでも一敗を喫し、背水の陣で西山と対戦したが、ここでも春の雪辱を受けてしまった。宮本はネット前への出足がやや重く、ヘアピンの打点が低いために攻撃のリズムを作り出すことができなかった。

同じ準決勝で敗れた喜良は、小柄ながらよく拾って、粘りのあるプレーは好感が持てた。

ベスト8へ進出した中では、サウスポーから切れ味の良いクロスショットを披露した吉村、丁寧な配球を見せた本石の二年生の活躍がフレッシュな印象を与えていた。

しかし総体的に見ると、力強いオーソドックスなプレーヤーが年々減少している感は否めない。

〝大健闘〟丹藤・楠美

シングルスでは圧勝した西山も、ダブルスでは動きが固く、スマッシュも不安定な面が多かったが、矢部の好リード、冷静な判断に助けられて激戦を乗り越えることができた。

事実上の決勝となった準決勝戦、対丹藤・楠美戦は双方ともに一歩も引かない大熱戦となった。丹藤のファイト溢れるリードと楠美のサウスポーからのクロスカウンターを武器に大健闘だったが、試合を最後まで棄てないという点で、矢部・西山が上回っていたようだ。

その試合に対する矢部・西山の執着心はベスト8入りをめぐって五回戦でも繰り広げられた。

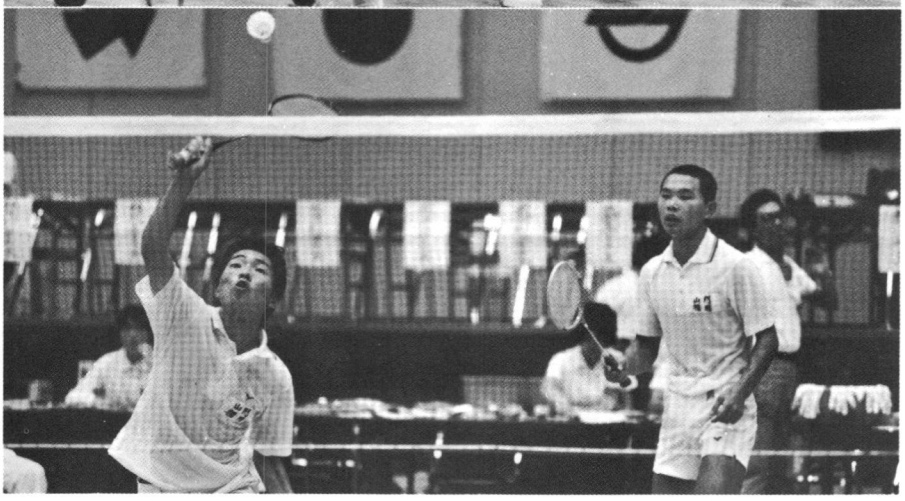
坂本・羽田に対し一ゲームを許し、なおコンビネーションの噛み合わない苦境に立たされたが、ラリーを続けながらじっくりと状態を立て直し逆転に成功した。

決勝へ進出するまでに試練を何度となくくぐり抜けたのが良かったのか、樋岡・吉村に対した矢部・西山の決勝戦は、堅くなった樋岡・吉村の凡ミスをうまく誘い、先手先手と攻めて一方的に優勝を決めてしまった。

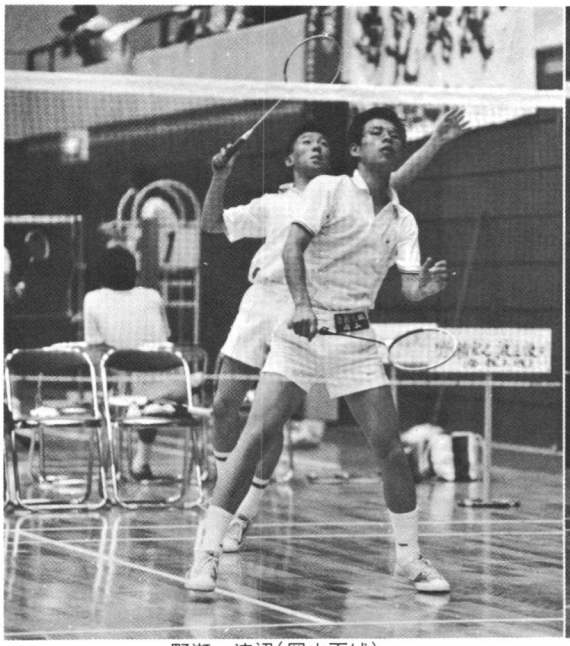
上位入賞はならなかったが、攻守ともに良くまとまった野呂・松月（三重・伊勢）、勝木・楠本（長崎・瓊浦）、きびきびした気持ちの良い試合を展開した菊地・山野（東京・堀越）、古賀・島添（福岡・山門）などの動きが目をひいた。



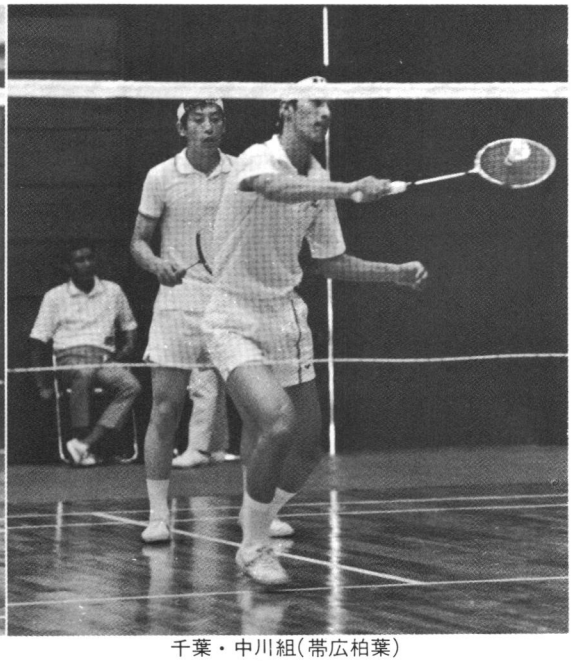
野呂・松月組（伊勢）



古賀・島添組（山門）



野瀬・渡辺（岡山天城）



千葉・中川組（帯広柏葉）

くらしき

原口（単）、平・河村（複）で独占

四条畷、三年連続六度目三冠の偉業

◆女子シングルス

▽準々決勝

河村（大阪）2（11—3 11—7）0星川（南北海道）

高野（新潟）2（11—4 11—3）0添野（栃木）

原口（大阪）2（11—6 11—0）0葛西（青森）

斎藤（新潟）2（11—3 11—8）0阿部（奈良）

▽準決勝

高野2（12—10 11—7 9—12）0河村

原口2（12—9 12—11）0斎藤

▽決勝

原口2（12—10 11—4）0高野

◆女子ダブルス

末兼・北田2（15—8 15—7）0浜田・田村（高知）

山下・葛西2（15—6 15—10）0吉川・中本（奈良）

阿部・横田2（15—8 15—11）0北池・片山（香川）

平・河村2（15—9 15—10）0高野・斎藤（新潟）

▽準決勝

末兼・北田2（15—3 15—7）0山下・葛西

平・河村2（15—3 15—1）0阿部・横田

▽決勝

平・河村2（15—12 15—8）0末兼・北田

勝者も敗者も涙・涙…

準決勝が終った瞬間、勝者の高野も、敗者の河村も、大粒の涙が頬を伝っていた。それはまさに大激戦の跡を如実に物語っていた。

1オールで迎えたファイナルゲーム、10—7と高野がマッチポイントを握ったものの、河村もここから強気に反撃に転じ、長いラリーに打ち勝ってセッティングにもつれこんだ。あと一点で勝利をつかむことができる者と、もう一歩も後へ引けない者のプレッシャーのかかった中での長いラリーは、手に汗を握る見事な内容だった。

しかしセッティングに持ち込んで気が緩んだのか、攻撃に追い上げていた時の迫力を欠き、大事な場面でのジャッジミスという不運を招いて、河村の二年連続決勝進出はならなかった。

優勝候補の筆頭、また第一シードの重圧という怪物に敗れたともいえよう。

番狂わせの主役を演じた高野は、長身から鋭角的なスマッシュを有効に使って、あくまで攻撃的な姿勢を崩さなかった旺盛な闘争心が勝因ではないだろうか。

二年生で二人目の快挙

四条畷三年連続三冠王の期待を一身に集めることになった二年生・原口も、準々、準決勝と険しい道のりを思わせた。

しかし、戦前の予想を上回る大健闘で、葛西には団体戦の雪辱を果たし難なくストレートで、斎藤には二ゲームともセッティングの辛勝だったがこれもストレートで下し、四条畷の底力を見せつけた。

決勝戦でも〝高野有利〟の予想をあっさりとくつがえして、立派に大任を果たした。

原口は、一見ひ弱な印象を受けるが、なかなかどうして小柄な体ではあるが、華麗なフットワークでスイスイと走り回り、セッティングにも強い勝負強さと冷静さを見せて、まさに〝柔よく剛を制す〟だった。

今年の大型選手としては、川島（滋賀・大津）、田辺（岡山・山陽）などが挙げられよう。そして高峰（熊本・中央女）、浜田（高知・土佐女）、北池（香川・善通寺一）などの好選手も数多かった。特にサウスポーの選手が多かったのが今年の特徴だろう。

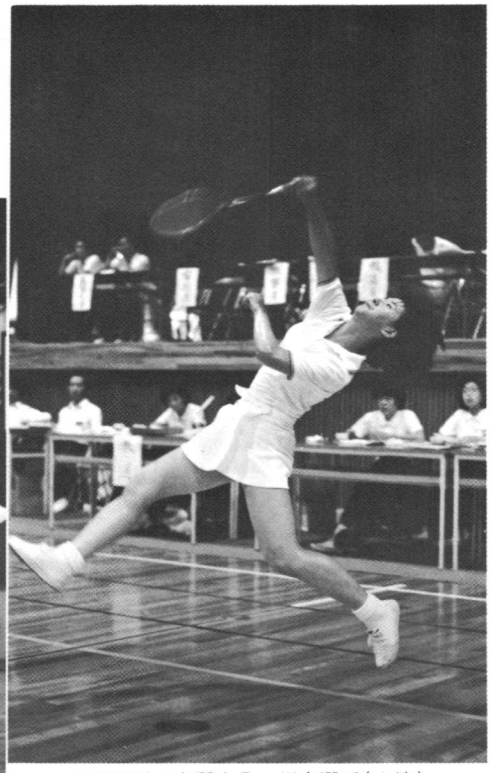
〝圧倒的〟四条畷ペア

ダブルスは四条畷が団体戦とは異ったペアで臨み、十分に価を発揮した。平・河村、末兼・北田、ともに段違いの横綱相撲だった。

僅かに高野・斎藤に期待が寄せられたが、平・河村の堅いレシーブの壁は破れなかった。高野のスマッシュがある程度通用していただけに、あとひと押し忍耐力ある攻撃が欲しかった。

四条畷の両ペアは、攻撃力こそ目立つものはなかったが、その完璧なレシーブ力は、他チームより遙かに卓越していた。

ベスト4は順当な結果だったが、山下・葛西にあわやの場面を作った二回戦の川島・西村（滋賀・大津）、同じくファイナルの好試合を演じた四回戦の金田・喜多（富山・高岡女）、高野斎藤から一ゲームを奪った山崎・近藤（山形・新庄南）らの奮戦ぶりが光っていた。


大型選手の素質十分・川島選手（大津）

これが大いに楽しみ・田辺選手（山陽女子）




閉会式で胸にメダルをかけて……上位入賞選手たち

――優勝おめでとうございます。初優勝でしかも三冠ということで、喜びもひとしおですね。

藤上監督　ええ、ありがとうございます。今はもう、最高の気分です。

――戦前から優勝候補の呼び声が高かったのですが、勝算はどうでしたか。

藤上監督　実際はやってみなければ分らないという気持でした。最終的には、納得できる試合さえできればいいという気持でした。

――力を十分に発揮しさえすれば、負けても納得できると…。

藤上監督　そうなんです。とにかく西山のダブルス、シングルスを取って彼に乗って押し切ろうという作戦でした。昨年は北橋というエースを持ちながら、温存しすぎて結局は宝の持ち腐れで終ってしまいましたから。今年はその二の舞いだけは踏まないように、エースの西山を押せ押せで使いました。このチャンスを逃がしたら、そうは簡単に全国制覇の機会は訪れないと思って……。

――決勝の金沢市立工戦を振り返ってみて、どうですか。

藤上監督　金沢市立工には過去に三回、苦い思いをさせられましたから雪辱戦でした。選手に期待していましたから、ただ〝勝てる〟と暗示するように言い聞かせました。ツキもありました。

――一年間を通して、主にどんな練習方法を採ったのですか。

藤上監督　去年は負けても今年は勝てるんだという気持から出発して、とにかく最後にものをいうのは体力、そして技術的にはスマッシュ。これしか無いと思ってやってきました。

――試合を見ていて、相当走り込んだ跡がうかがわれますが。

藤上監督　バドミントンというと、まだまだ県内でも校内でも認識が浅いので、走ることだけでも他のクラブに勝つのを目標にして走りました。おかげで駅伝では一・二位を独占し、個人でも上位八位までに五人も入ってくれたほどで……大会出場が決定してからは、学校から倉敷市までの距離を測って走り抜きました。

――技術的には？

藤上監督　さっきもいったように、最後に勝負を決めるのはスマッシュだということで、打ち込みました。実力的に二番手から六番手までが同じぐらいなので、その競争意識の中で鍛えるようにしました。西山には、九州学院の宮本君を頭に描いて、**2：1**でスマッシュを打たせたり、一見無理と思えるようなこともしました。

●優勝校インタビュー　**男子・滋賀県比叡山高校**

県内一体となって!!



――優勝おめでとうございます。三年連続、六度目の三冠ということで優勝には慣れっ子になっていると思うのですが、どうですか。

片岡監督　（大阪弁で）そりぁ優勝というのは、何べんしてもええもんですわ。子供達がホンマにようやってくれました。（六度目というのに本当に嬉しくてたまらないといった様子）

――今年のチームと過去のチームの違う点は、どういうところでしたか。

片岡監督　過去優勝した時にはいつでも、徳田（現サントリー）とか植野（現四条畷短大）とか石川（現四条畷短大）といった大型のエースが居りましたから楽でした。けど、今年は小粒な選手ばかりで、実力的にもそう変らないので、オーダーにも苦心しました。エース不在をカバーするためにいろいろやりまし



鬼より怖い……？

↓女子・大阪府四条畷学園高校　優勝校インタビュー●

――初優勝へ導くためには、いろいろと苦労話があると思うのですが。

藤上監督　ええ、滋賀県はもともとレベルの低い県だったので、兄（中学教員）とも相談しまして、中学、高校と一貫した指導をしてきました。そして県立では、いろいろな面で力が及ばないので私立へ移ってきました。最初は生徒と一緒に走ったりして……、基盤となるものが何もなかったので苦労もしましたが、今はそんなことは忘れて、嬉しいの一語です。

――ありがとうございました。では選手として活躍した皆さん、現在の心境は？

矢部忠司君　最後を飾ることができたので……（嬉しさを何という言葉で表わしたらいいのかといった様子）

西山博司君　なんだか実感がわかなくて、家に帰ったら徐々に嬉しくなるのかな、といった気持です。（顔を見合わせて、両者うなずく）

――どんな気持で大会に臨みましたか。

矢部忠司君　やれるところまでやってみようと、それだけです。

西山博司君　大会前に故障したんですが、後のことを考えないで思い切りやろうと……（また両者うなずき合う）

――それで戦う前の気持はどうでしたか。

片岡監督　一応、やるだけのことはやったんですが、やはり多少の不安感はありましたね。

――何回優勝していても不安感はあるものなんですね。

では選手の皆さんにもひとこと。

平久美子さん　試合の前に先生が「大丈夫」といってくれたので安心してできました。金メダルが三つになったので嬉しいです。

河村茂美さん　隣のコートのことは判っていました。（ぜったわりには余裕があったという意）スマッシュを打つと振り回されるので、レシーブしていた方が楽でした。5―0の時、勝てると思いました。

――ダブルスとシングルスとどちらの方が好きですか。

平久美子さん　ダブルスの方が好きです。

河村茂美さん　ダブルスの方が合っているみたいです。

――先生は怖いですか。

平久美子さん（先生の方を見ながら）怖くないけど……やっぱり怖いです。

河村茂美さん　練習中は鬼みたいに怖い。（笑い）授業中の方が好きです。

た。

――では一年間を過しての、その苦心されたところは。

片岡監督　エース不在ということもありますが、今年からダブルス、シングルスをそれぞれ専門に強化してみました。集中して覚えられるし、人には向き不向きがありますから、原口にはシングルスを、平にはダブルスを主にやらせました。これは目本のトップレベルの選手にもいえることです。世界がもうそうであるように……。これが私の持論なんです。

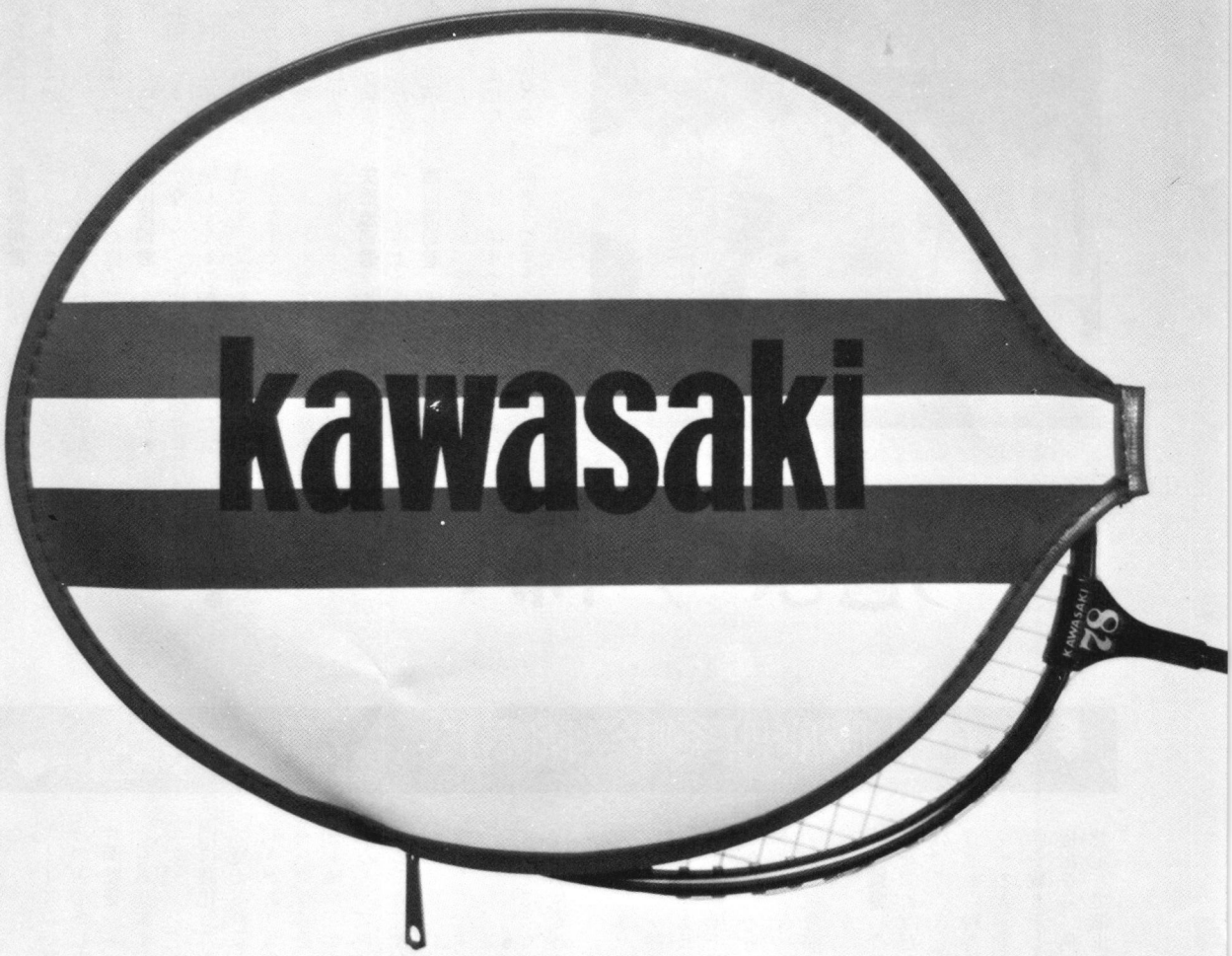
それと、これは従来からやっていることなんですが、上級生と下級生を組ませて試合に出させています。下級生同士ではとても勝てませんが、上級生と組めば何とか勝てる。その勝つ味を覚え込ませる。何とか勝つという修羅場を踏ませることが、来年へつながり、来年もまた生きてきます。

――試合前はどんな練習をされましたか。

片岡監督　今年の相手（決勝の）は新潟青陵だということはほぼ分っていましたから、大会の十日前から対青陵戦を想定して、ウチの大学生を相手にリハーサルを繰り返しました。オーダー提出から、何から何まで本番を想定して演出しました。

カワサキラケット
河崎ラケット工業株式会社

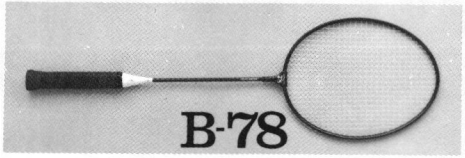
ドラマが始まる。



世界が燃える。

イギリス、デンマーク、インドネシア…
世界のコートで実力を発揮し、活躍するカワサキ。
数々の勝利のドラマを生み、
トッププレーヤに注目され続けています。

アルミ、クロームモリブデン、アルミ合金ダイカストを採用。
それぞれの特性を充分いかした軽く、弾力性豊かな新製品です。



No.B-78/セブンエイト/モスグリーン(アルミフレーム)
フレーム価格6,000円(ケース付)

栄光のあと

（学校対抗の部）

回数	年度	開催地	種別	参加校	1位	2位	3位
第1回	1950	横浜市	男子 女子	42 30	関東学院(神) 札幌東(北)	緑ケ岡(神) 津幡(石)	金沢泉ケ丘(石) 新潟中央(新)
第2回	1951	札幌市	男子 女子	42 38	関東学院(神) 札幌南(北)	聖学院(東) 札幌星園(北)	金沢泉ケ丘(石) 安積(福)
第3回	1952	善通寺町	男子 女子	63 61	金沢二水(石) 札幌南(北)	金沢泉ケ丘(石) 善通寺第一(香)	北海(北) 札幌東(北)
第4回	1953	山形市	男子 女子	65 69	北海(北) 尚絅女学院(宮)	関東学園(神) 黒石(青)	関東学院六浦(神) 若松女子(福)
第5回	1954	金沢市	男子 女子	69 71	金沢二水(石) 坂出(香)	松江商業(島) 若松女子(福)	聖学院(東) 善通寺第一(香)
第6回	1955	神戸市	男子 女子	38 39	聖学院(東) 山陽学園(岡)	金沢二水(石) 尚絅女学院(宮)	山形市立商業(山) 善通寺第一(香)
第7回	1956	仙台市	男子 女子	40 40	松江商業(島) 善通寺第一(香)	白石(宮) 山陽学園(岡)	黒石(青) 尚絅女学院(宮)
第8回	1957	松江市	男子 女子	41 40	山形市立商業(山) 善通寺第一(香)	松江商業(島) 敬愛学園(秋)	聖学院(東) 前橋市立女子(群)
第9回	1958	新潟市	男子 女子	40 40	山形南(山) 善通寺第一(香)	津幡(石) 山陽学園(岡)	新潟(新) 尚絅女学院(宮)
第10回	1959	会津若松市	男子 女子	44 41	山形市立商業(山) 善通寺第一(香)	帯広三条(北) 坂出(香)	茨木(大) 敬愛学園(宮)
第11回	1960	久留米市	男子 女子	43 43	山形市立商業(山) 善通寺第一(香)	横浜緑ケ丘(神) 敬愛学園(秋)	神戸商(兵) 高岡女子(富)
第12回	1961	弘前市	男子 女子	42 42	新潟商業(新) 敬愛学園(秋)	横浜緑ケ丘(神) 新庄南(山)	松江商(島) 真岡女子(栃)
第13回	1962	高岡市	男子 女子	42 43	聖学院(東) 高岡女子(富)	山形市立商業(山) 敬愛学園(秋)	新潟商業(新) 新潟中央女子(新)
第14回	1963	鶴岡市	男子 女子	44 45	新潟商業(新) 新潟女子工芸(新)	富山商業(富) 新庄南(山)	帯広三条(北) 城北女子(山)
第15回	1964	京都市	男子 女子	45 46	富山商業(富) 敬愛学園(秋)	新潟商業(新) 布施女子(大)	秋田経大付(秋) 善通寺第一(香)
第16回	1965	熊本市	男子 女子	47 45	富山商業(富) 真岡女子(栃)	高岡商業(富) 成安女子(京)	北越商業(新) 布施女子(大)
第17回	1966	弘前市	男子 女子	46 47	宮城工業(宮) 敬愛学園(秋)	高岡商業(富) 山陽女子(岡)	富山商業(富) 新潟青陵(新)
第18回	1967	金沢市	男子 女子	46 48	金沢市立工業(石) 新潟青陵(新)	奈良市立一条(奈) 東大阪(大)	新潟商業(新)・高岡商業(富) 富田女子(岐)・真岡女子(栃)
第19回	1968	福山市	男子 女子	47 48	高岡商業(富) 東大阪(大)	金沢市立工業(石) 新潟青陵(新)	三条商業(新)・日大山形(山) 敬愛学園(秋)・成安女子(京)
第20回	1969	桐生市	男子 女子	48 48	金沢市立工業(石) 東大阪(大)	桐生市立工業(群) 成安女子(京)	高岡商業(富)・富山商業(富) 真岡女子(栃)・新潟青陵(新)
第21回	1970	名古屋市	男子 女子	47 47	富山商業(富) 真岡女子(栃)	新潟商業(新) 成安女子(京)	伊勢工業(三)・正強(奈) 新庄南(山)・四条畷学園(大)
第22回	1971	善通寺市	男子 女子	47 49	正強(奈) 四条畷学園(大)	日本大学山形(山) 成安女子(京)	高松商業(香)・高岡商業(富) 鶴鳴女子(長)・奈良市立一条(奈)
第23回	1972	新庄市	男子 女子	47 49	正強(奈) 四条畷学園(大)	岐阜東(岐) 新庄南(山)	金沢市立工業(石)・日本大学山形商(山)・我孫子二階堂(千)・奈良市立一条(奈)
第24回	1973	四日市市	男子 女子	48 49	金沢市立工業(石) 四条畷学園(大)	日本大学山形(山) 我孫子二階堂(千)	正強(奈)・勝山(福) 成安女(京)・真岡女(栃)
第25回	1974	嬉野町・塩田町	男子 女子	49 50	正強(奈) 新潟青陵(新)	日本大学山形(山) 四条畷学園(大)	金沢市立工業(石)・勝山(福) 藤園女子(富)・善通寺第一(香)
第26回	1975	水戸市	男子 女子	49 50	金沢市立工業(石) 四条畷学園(大)	正強(奈) 琴平(香)	石岡一(茨)・仙台商(宮) 成安女(京)・藤花(石)
第27回	1976	中野市	男子 女子	49 50	金沢市立工業(石) 四条畷学園(大)	九州学院(熊) 新潟青陵(新)	比叡山(滋)・一条(奈) 土佐女(高)・真岡女(栃)

回数	年度	開催地	種別	参加校	1位	2位	3位
第6回	1955	神戸市	男単	74	(聖学院) 永井 栄一	(聖学院) 北島 克英	(四日市農) 林 七郎
			女単	74	(函館東) 渡辺 公子	(尚絅女) 佐々木功子	(善一高) 永田 豊子
			男複	73	(聖学院) 永井・小野岡	(聖学院) 北島・吉野	(金沢二水) 北方・関
			女複	74	(山陽学園) 友野・権田	(山陽学園) 小林・三宅	(善一高) 永田・藤田
第7回	1956	仙台市	男単	79	(山形商) 板垣 隆房	(聖学院) 吉野 嘉保	(関東六浦) 小宮 好雄
			女単	78	(善一高) 横井キヌエ	(山陽学園) 戸田 寿子	(山陽学園) 小林 桂子
			男複	78	(聖学院) 吉野・福永	(松江商) 星野・小田	(山形商) 板垣・山岸
			女複	78	(善一高) 横井・井上	(善一高) 山下・大西	(山陽学園) 小林・戸田
第8回	1957	松江市	男単	81	(関東六浦) 小宮 好雄	(関東学院) 中村 智	(松江商) 平野 隆
			女単	81	(善一高) 田島外茂子	(北陸学院) 長田悠喜子	(函館東) 尾関 紀子
			男複	80	(関東六浦) 小宮・落合	(関東学院) 中村・蒔田	(松江商) 富田・今村
			女複	79	(善一高) 田島・山下	(善一高) 宮川・野間	(金城高) 北島・松田
第9回	1958	新潟市	男単	73	(山形南) 板垣 善憲	(富士東) 三浦 三作	(奈良商工) 森 晃一
			女単	78	(金城高) 山崎喜久子	(芽室東) 間宮美紀子	(宇治山田) 伊村 博子
			男複	73	(山形南) 板垣・金森	(山形南) 船山・永井	(札幌工) 五味川・堀川
			女複	77	(金城高) 川 ・山崎	(敬愛学園) 三森・木村	(善一高) 蔵本・有本
第10回	1959	会津若松市	男単	84	(緑ケ岡) 岡崎 恵三	(高松) 稲井 剛	(茨木工) 玉井 治之
			女単	83	(善一高) 蔵本 文子	(敬愛学園) 横山 満子	(善一高) 福本 和子
			男複	84	(山形商) 永井・北村	(緑ケ丘) 岡崎・山本	(高松商) 東条・井上
			女複	83	(善一高) 蔵本・有本	(敬愛学園) 横山・高橋	(善一高) 福本・三原
第11回	1960	久留米市	男単	84	(緑ケ岡) 岡崎 恵三	(高松) 稲井 剛	(神戸商) 近道 利一
			女単	83	(善一高) 横井 文子	(高岡女) 橘 美智子	(敬愛学園) 高橋 泰子
			男複	84	(緑ケ丘) 岡崎・山本	(新潟商) 阿部・笠原	(新潟) 福島・高見
			女複	81	(高岡女) 橘 ・酒井	(敬愛学園) 高橋・長崎	(吉原) 関 ・内藤
第12回	1961	弘前市	男単	84	(甲府商) 秋山 真男	(新潟商) 大竹 紘一	(宇治山田) 伊村 隆
			女単	84	(富士見高) 望野 政枝	(新庄南) 佐藤 弘子	(新庄南) 小笠原詔子
			男複	83	(新潟商) 大竹・安沢	(山形商) 森谷・板垣	(帯広三条) 中村・松浦
			女複	84	(新庄南) 小笠原・渡辺	(敬愛学園) 大門・伊藤	(掛川西) 高木・天野
第13回	1962	高岡市	男単	82	(聖学院) 西野 一征	(緑ケ丘) 小島 一平	(富士) 斉藤 正勝
			女単	86	(山陽学園) 高塚 淳子	(高岡女) 橘 妙子	(高岡女) 室崎 光子
			男複	82	(聖学院) 西野・須田	(新潟商) 本田・荒川	(緑ケ丘) 小島・棚橋
			女複	85	(山陽学園) 高塚・重政	(善一高) 松村・多田	(高岡女) 室崎・河村
第14回	1963	鶴岡市	男単	87	(新潟商) 裏田 光男	(聖学院) 関 一誠	(聖学院) 中村 安
			女単	86	(城北女) 高橋とも子	(新潟中央) 後藤 和子	(北斗) 高森 幸子
			男複	87	(新潟商) 星野・裏田	(新潟商) 鈴木・神田	(聖学院) 関 ・中村
			女複	85	(新潟女工) 加藤・石崎	(城北女) 高橋・渡辺	(新潟中央) 後藤・茂沢
第15回	1964	京都市	男単	88	(奈良商工) 森 芳夫	(高岡商) 盛野 博之	(岐阜工) 堀 幸矩
			女単	90	(敬愛学園) 佐々木フミ	(新潟女工) 竹内 泰子	(高岡女) 硲 恵美子
			男複	88	(富山商) 高林・池田	(高岡商) 立野・盛野	(奈良商工) 森 ・河村
			女複	90	(新潟女工) 竹内・石本	(新潟中央) 高野・渡辺	(真岡女) 植木・大島
第16回	1965	熊本市	男単	92	(富山商) 栂野尾昌一	(富山商) 寺前 信之	(日大山形) 沼沢 利一
			女単	89	(布施女) 近藤 光枝	(善一高) 山本 真江	(布施女) 才脇 妙子
			男複	92	(富山商) 栂野尾・寺前	(日大山形) 沼沢・中村	(岐阜工) 堀 ・杉山
			女複	88	(善一高) 山本・細川	(真岡女) 上野・石崎	(布施女) 近藤・才脇
第17回	1966	弘前市	男単	91	(新潟商) 本間 順次	(宮城工) 我妻 一郎	(宮城工) 市川 清
			女単	92	(山陽女) 湯木 博江	(山陽学園) 浦口 恵子	(新庄南) 遠藤 幹子
			男複	90	(新潟商) 本間・高橋	(宮城工) 市川・我妻	(富山商) 牛島・藤永
			女複	92	(新潟青陵) 本間・日下	(山陽女) 浦口・湯木	(新庄南) 小山・遠藤
第18回	1967	金沢市	男単	92	(富山商) 米田 実	(金沢) 黒田 博	(正強) 植田 竜 (高岡商) 牧野 光男
			女単	94	(新潟中央) 高坂 薫	(新潟青陵) 相沢マチ子	(聖愛) 奈良岡洋子 (東大阪) 池田 栄子
			男複	91	(富山商) 松島・米田	(富士) 笠井好・笠井教	(金沢市工) 高木・流 (金沢市工) 山本・松本
			女複	94	(新潟青陵) 相沢・金子	(真岡女) 田仲・枝	(新潟青陵) 近藤・堀川 (東大阪) 池田・平山
第19回	1968	福山市	男単	92	(高岡商) 二上 敏博	(岐阜東) 足立 守男	(日大山形) 田所 光男 (日大山形) 遠藤 好男
			女単	94	(東大阪) 平山 泰子	(新潟青陵) 堀川恵美子	(真岡女) 豊田 敏子 (真岡女) 橋本香代子
			男複	92	(富山商) 草島・布目	(高岡商) 二上・宮林	(高松商) 松田・三野 (日大山形) 遠藤・田所
			女複	94	(新庄南) 早坂・垣崎	(真岡女) 清水・藤田	(成安女) 陣内・村田 (東大阪) 高崎・大場
第20回	1969	桐生市	男単	92	(富山商) 尾崎 幹雄	(秋田経大附) 舟山 敏彦	(金沢市立工) 小中 雅樹 (桐生市立商) 内田 通夫
			女単	94	(東大阪) 柴山きよ子	(真岡女) 石崎 茂子	(成安女) 陣内 裕子 (東大阪) 高崎 弘子
			男複	92	(富山商) 尾崎・中川	(桐生市立商) 内田・桐生台	(金沢市立工) 小中・村谷 (桐生市立商) 小林・渡辺
			女複	94	(東大阪) 柴山・高崎	(富田女) 及川・脇田	(東大阪) 大場・坂本 (成安女) 陣内・岡崎

回数	年度	開催地	種別	参加校	1位	2位	3位
第21回	1970	名古屋	男単	92	(富山商) 西村 美鶴	(大聖寺) 銭谷 欽治	(天理) 金田 龍造 (日大鶴ヶ丘) 市村 栄文
			女単	94	(成安女) 陣内 裕子	(四条畷学園) 秋本八代美	(四条畷学園) 西尾真理子 (一条) 佐伯 智子
			男複	92	(富山商) 森田・松島	(新潟商) 山田・竹野	(正強) 巽・西川 (高松工) 日下・曽根
			女複	94	(成安女) 岡崎・陣内	(四条畷学園) 秋本・西尾	(新庄南) 清水・矢口 (成安女) 谷・尾崎
第22回	1971	善通寺市	男単	92	(富山商) 下田 春樹	(日大山形) 米山 正和	(正強) 西川 繁美 (三条商) 土田 証雄
			女単	96	(四条畷学園) 秋本八代美	(市立一条) 佐伯 智子	(市立一条) 古谷 成代 (四条畷学園) 西尾真理子
			男複	92	(日大山形) 米山・中島	(高松商) 中原・木下	(正強) 西川・佐野 (山形工) 大場・秋葉
			女複	95	(四条畷学園) 西尾・秋本	(市立一条) 佐伯・古谷	(善通寺第一高) 白玖・大矢根 (新庄南) 矢口・本間
第23回	1972	新庄市	男単	92	(正強) 中井 基夫	(添上) 辻 敏弘	(東奥義塾) 須藤 茂
			女単	96	(四条畷学園) 秋本 幸子	(四条畷学園) 徳田 敦子	(真岡女子) 沼能 久子
			男複	92	(正強) 中井基夫・南田義正	(山形工) 秋葉博・三井幸嗣	(東山形) 渡辺秀明・菅野 隆
			女複	96	(四条畷学園) 秋本幸子・徳田敦子	(四条畷学園) 諸橋典子・高田幹子	(山陽女子) 三田明美・寺見みどり
第24回	1973	四日市市	男単	94	(富山商) 西村 正美	(正強) 池田 文昭	(東奥義塾) 工藤 吉彦 (市立一条) 辰己 秀雄
			女単	96	(四条畷学園) 徳田 敦子	(成安女) 井上 昌子	(成安女) 朝日 昌子 (市立尼崎) 桜井 誠子
			男複	93	(富山商) 西村正美・梶川博之	(正強) 池田文昭・松重恵三	(勝山) 平野・長谷川 (日大鶴ヶ丘) 榎・中谷
			女複	95	(四条畷学園) 徳田敦子・高田幹子	(成安女) 井上昌子・朝日昌子	(市立長崎商) 山田・野中 (真岡女) 日向野・石田
第25回	1974	佐賀県嬉野町塩田町	男単	96	(勝山高) 長谷川博幸	(金沢市立工高) 滝川 修	(逗子開成高) 小林 康男 (日大鶴ヶ丘) 成田 勧次
			女単	98	(四条畷学園) 植野恵美子	(奈良市立一条高) 山本 邦子	(新潟青陵高) 大塚ソノエ (山陽女高) 原田美智子
			男複	95	(勝山高) 長谷川博幸・諏訪 芳博	(金沢市立工高) 滝川 修・船本 圭樹	(瓊浦高) 福本信太郎・管 敏明 (奈良市立一条高) 塚本 良一・小倉 久和
			女複	98	(新潟青陵) 関根 和子・大塚ソノエ	(山陽女高) 原田美智子・藤原 敦子	(成安女高) 辻 かおる・貝瀬かほり (新潟青陵高) 海老恵美子・平野 幸
第26回	1975	水戸市	男単	96	(九州学院)(熊)林田 草樹	(千厩)(岩)菅原 敬二	(金沢市立工)(石)宮森 庄吉 (七尾農)(石)坂本 宏志
			女単	98	(四条畷学園)(大)植野恵美子	(藤園女子)(富)米倉よし子	(藤花)(石)石田ひとみ (四条畷学園)(大)北村寿弥子
			男複	96	(正強)(奈) 吉岡 伸治・富田 章夫	(金沢市立工)(石) 宮森 庄吉・酒井 真人	(高松商)(香)峰 寛文・上原 明 (奈良一条)(奈)小倉 久和・小浜 充弘
			女複	98	(四条畷学園)(大)植野恵美子・石川 好子	(園田学園)(兵)佐藤 真弓・雑賀富士子	(藤園女子)(富)米倉よし子・山西 百恵 (奈良一条)(奈)山本 邦子・桐山 綾子
第27回	1976	中野市	男単	96	(塩釜)(宮)宍戸 隆夫	(一条)(奈)諸多 博之	(金沢市工)(石)重山 成生 (比叡山)(滋)北橋 進
			女単	98	(四条畷学園)(大)石川 好子	(四条畷学園)(大)河村 茂美	(渋川女)(群)南雲 栄子 (滋賀女)(滋)柴田 真弓
			男複	96	(高松商)(香)上原 明・平野 勝彦	(伊勢工)(三)山西 友行・森井 弘善	(日大山形)(山)工藤 重信・伊藤 洋 (一条)(奈)小浜 充弘・諸多 博之
			女複	98	(四条畷学園)(大)石川 好子・平 久美子	(新潟青陵)(新)藤井 良子・青木 恵子	(土佐女)(高)浜田 由理・田村 圭香 (巣鴨女)(東)喜多川昌子・徳永 順子

Air Mail From London by H. Yamamoto

ヨーロッパ情報

イギリスナンバーワンのギリアン・ギルクス夫人は、クリスマスまではバドミントン競技はしないだろうと語った。

新しく始めたスポーツ店の仕事のため、競技や遠征に時間がさけないというのがその理由。

メンバーを選出する委員は、ギルクス夫人にできるかぎり便宜をはかるし、遠征に行く場合でも、二週間以内（本来ならもっとかかる）でもかまわないとしたが、ギルクス夫人は彼らとの面談も辞退し、さらに新たに選ばれた選出委員とトップクラスの女子プレーヤーとの間で行われる特別な会談への出席も辞退した。

ギルクスの決心により、元全英チャンピオンであり、選出委員長でもある英国ユーバー杯チームのマネジャーコーチのジュディ・ハッシュマン夫人と、同選出委員のモーリス・ロビンソン氏にさらに問題を投げかけることとなった。

◎もう一人のナンバーワンであるマーガレット・ロックウッド夫人は、最近右ひざの軟骨を取り、バドミントン協会の医師ジャスティン・ハウズ氏の治療を受けている。

彼女はたぶん来シーズンまでには完治するであろう。来シーズンの最初の重要な試合は、10月1日、2日に開かれる英国招待シングルス大会である。

◎イギリスはこの秋始まるユーバー杯のヨーロッパゾーンにおいて、よいクジを引いた。イギリスとデンマークはシードされており、最初の試合である準決勝で、イギリスはオランダとスウェーデンの勝者対カナダの勝者と対戦する。

一九七五年には、イギリスは5―2でデンマークを破り、ヨーロッパゾーン代表となっている。

◎イギリスの昨シーズンの成績に基づいた新しいランキングが次のように発表された。カッコ内は前シーズンの順位。

▼男子

1位＝デリク・タルボット(3)
2位＝R・P・スティ　ブンス(2)
3位＝デビッド・エディ(7)
同　＝マイク・トレジェット(7)
5位＝K・R・ジョリー(―)
6位＝D・R・ハント(4)
7位＝M・J・ウィルクス(6)
8位＝T・A・グード(9)
同　＝R・J・シャープ(―)

▼女子

1位＝ギリアン・ギルクス夫人(1)
2位＝マーガレット・ロックウッド夫人(2)
3位＝J・A・ウェブスター(3)
4位＝P・M・キルビントン(5)
5位＝K・S・ブリッジ(7)
6位＝A・E・スタット夫人(―)
7位＝K・レッドヘッド(9)
同　＝D・R・アンダーウッド夫人(―)
同　＝S・ワイタッカー夫人(―)
同　＝H・B・ウィックソン夫人(―)

以上7月12日付「ガーデイアン」紙から訳しました。ギルクス夫人は今年の全英選手権の前にも、広告入りユニフォームについてイギリス協会ともめており、今回の背景にはそんなものがあるのかも知れない。いずれにしても話題の多い人である。

▼この欄は、現在ロンドン出張中の山本洋彦さん（北辰電機ロンドン事務所）に、ヨーロッパにおける情報を逐時伝えていただくものです。ご期待ください（編集部）

別冊

ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック

好評発売中

B5判・48ページ

500円・送料120円

別冊「ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック」は、いまや世界の頂点に立ったヨーロッパ選手を連続写真によって徹底的に分析し、その強さの秘密をさぐろうというものです。

そして各プレーには、わが国第一線の選手による詳しい解説がつき、さらに美しいカラーグラビアのページもあります。ぜひご覧ください。

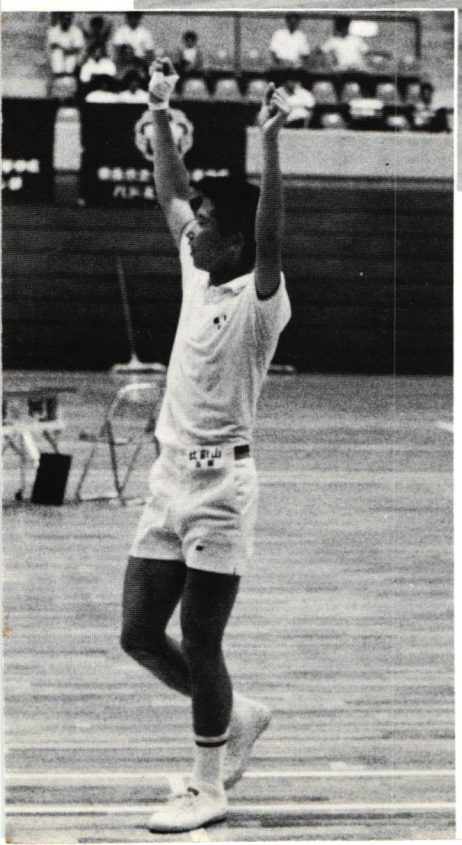
▼定価＝500円（送料120円）
▼判型＝B5判・48ページ・うちカラー4ページ
▼登場選手＝F・デルフス、S・プリ、T・キールストロム、B・フローマン、M・ロックウッド＝以上連続写真
S・プリ、F・デルフス、P・ニールセン、I・ボルグストロム、M・ロックウッド、N・ペリー、チュン●チュン、ワジュディ、クリスチャン、チャンドラ、梁秋霞、劉霞＝以上グラフ
▼解説＝小島一平、池田信孝
栂野尾昌一、尾崎幹雄、銭谷欽治、飯野佳孝、土田証雄、湯木博恵、栂野尾悦子
▼お申込方法＝現金書留で部数を明記のうえ、代金・送料を添えて左記へ。
▼〒150　東京都渋谷区神南一―一―一　岸記念体育会館
バドミントン界編集部

友よ！　清く　仲よく　たくましく

くらしき



ネット際の処理も確実にこなした西山博司(比叡山)



三冠決定の瞬間、思わず「バンザイ!!」

全国高等学校総合体育大会では、図のマークが使用されているが、これは昭和25年に定められたものであり、３つのＫをデザインしたものである。３つのＫとはKraft(力), Kunst (技), Klarheit(明朗なる精神)というドイツ語の頭文字である。

from carlton England

1,000,000ダース

カールトン・ナイロンシャトルの年間生産量です。

ニュートーナメント

1個
¥280

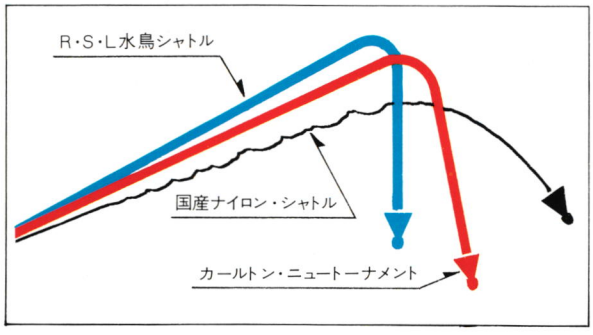




インターナショナル

1個
¥220

だから、こんなに安い価格で輸入品がお求めになれます。





ニュートーナメント：ターンオーバーがはやい。

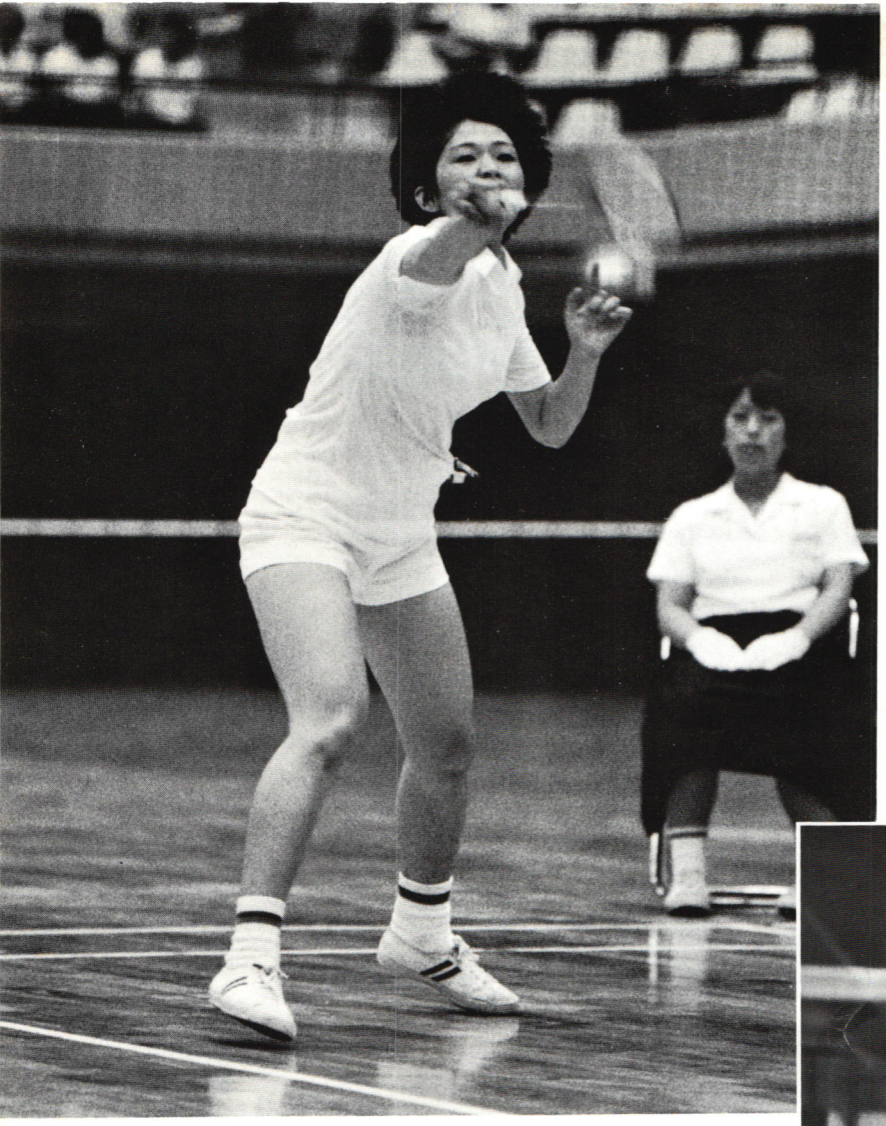
左の図は、シャトルの飛行線を表わしたものです。カールトン・ニュートーナメントが水鳥シャトルの飛び方にいかに酷似しているか、おわかり頂けると思います。

しかも、国産品とは飛びが違います。

だから

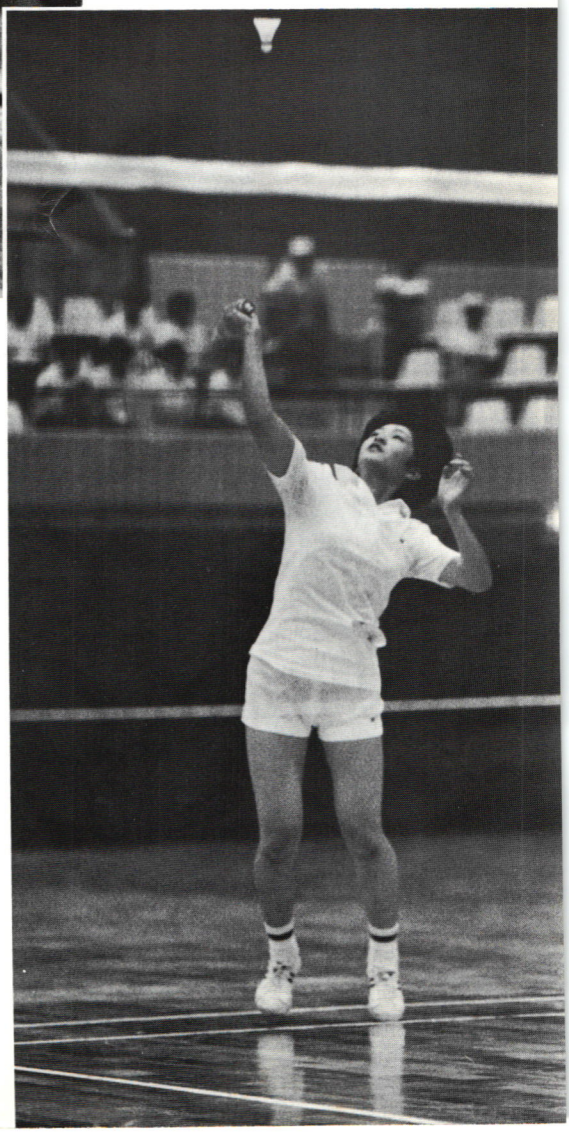
シャトルコックならカールトン

総発売元 メトロレジャー株式会社
〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

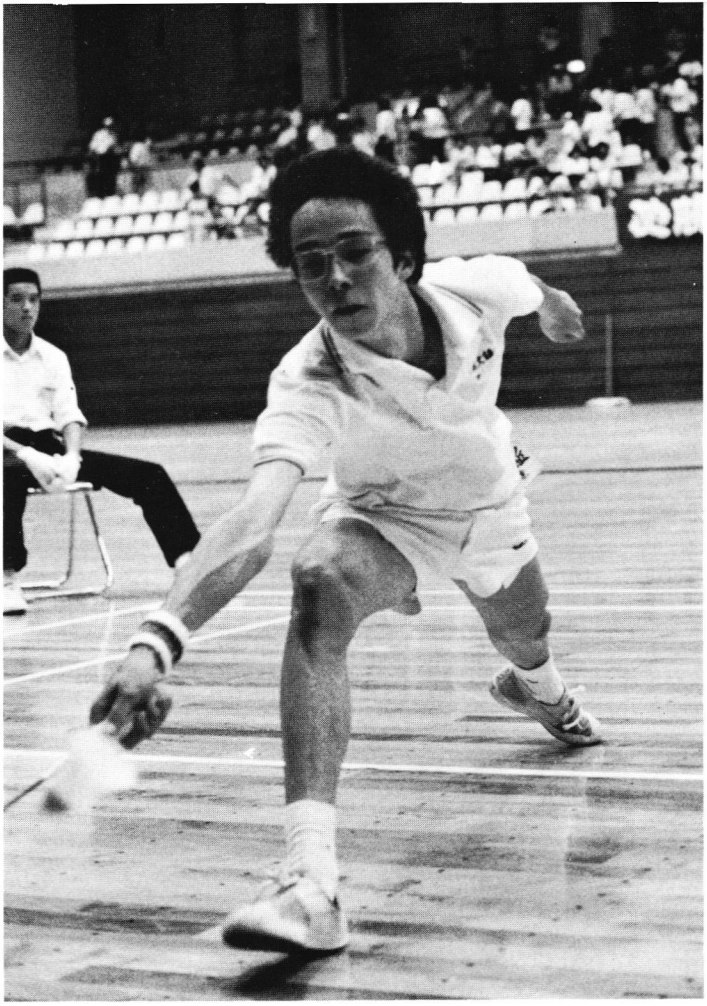


セッティングにも勝負づよいところをみせた
原口恵子(四条畷学園)

Kraft Kunst Klarheit

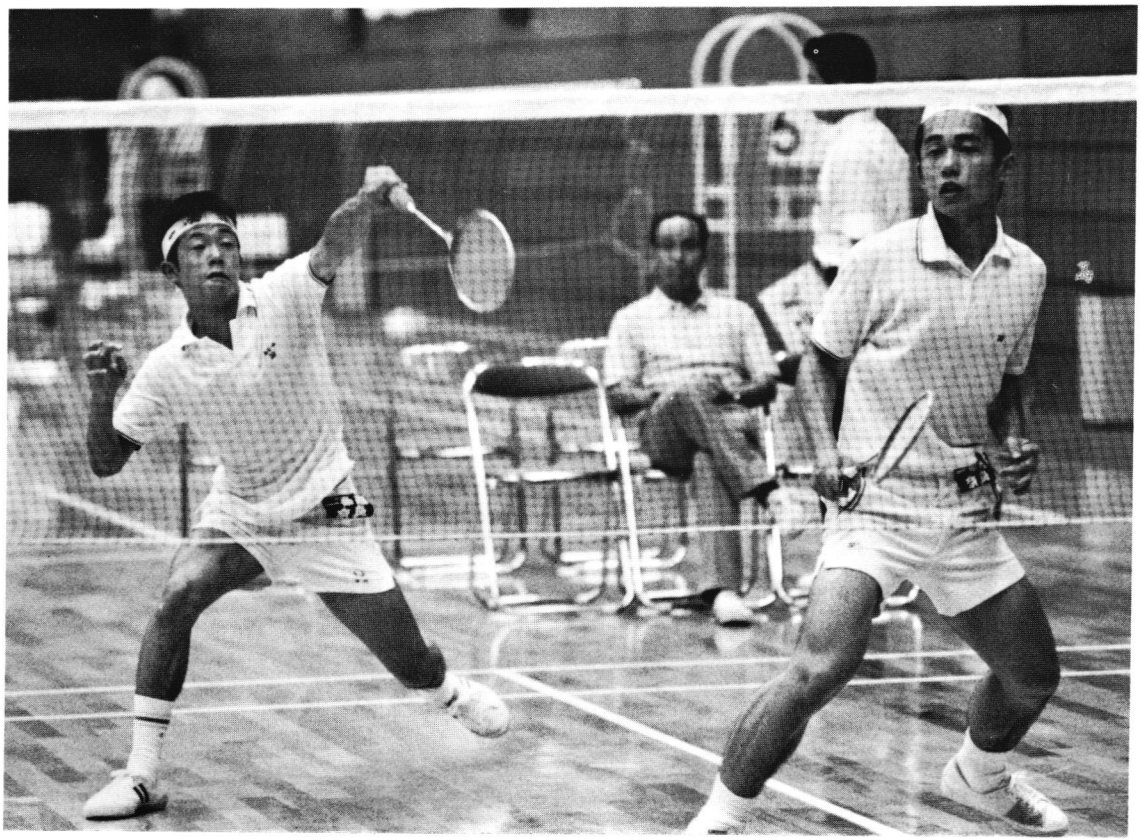


小柄ながら軽快なフットワークが身上



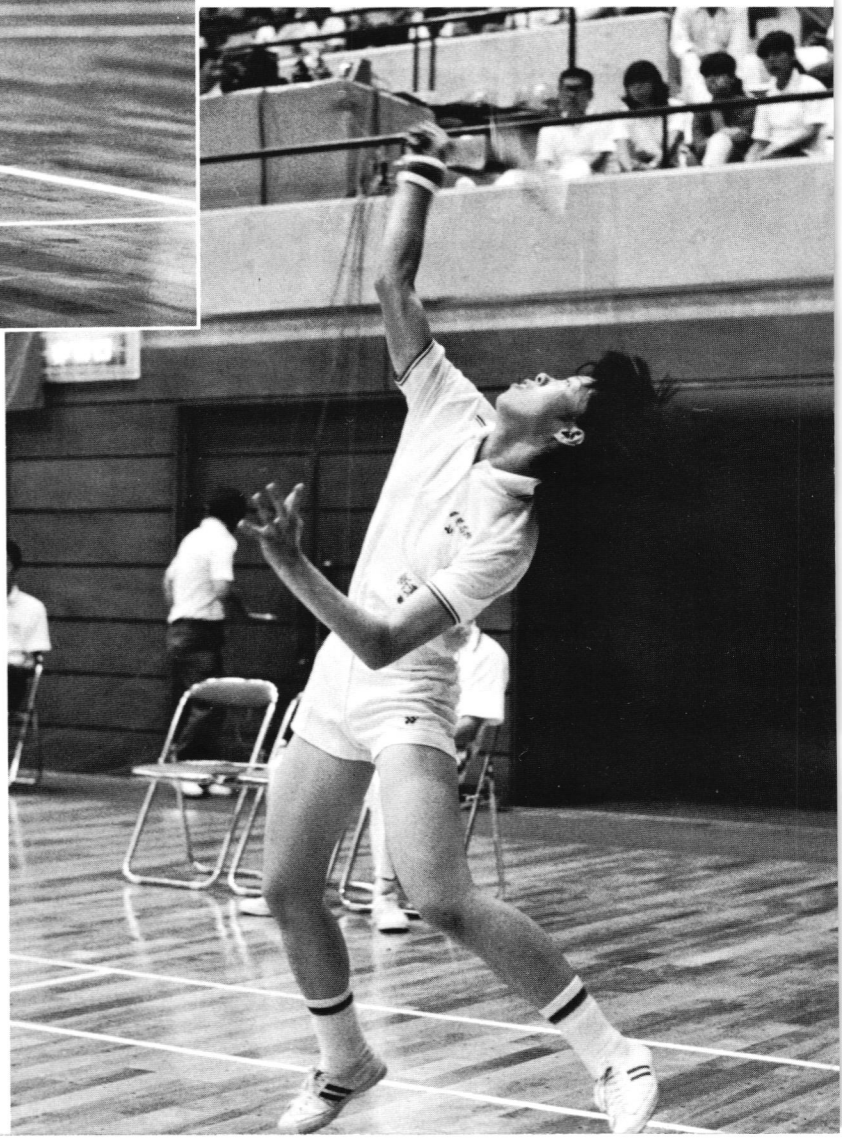
シングルス２位・漆原享（日大鶴ケ丘）

惜しくも２位となった樋岡俊司・吉村輝高組（一条）





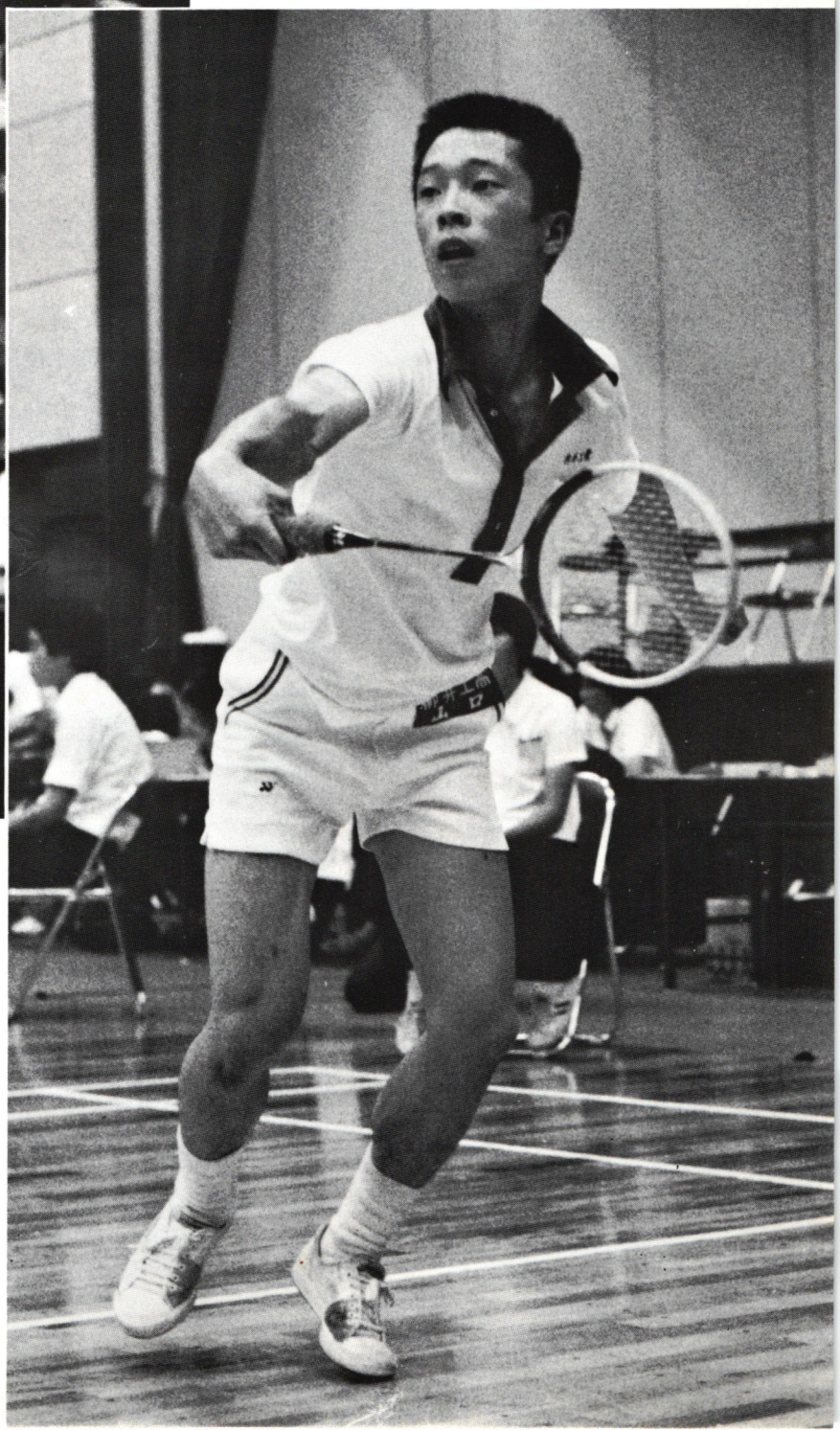
シングルス３位・斎藤桂子（新潟青陵）



角度のある強烈なスマッシュをもつ
シングルス２位の高野和代（新潟青陵）



シングルス３位・喜良明文（柳井工）





ダブルスで栄冠を勝ちとった矢部忠司・西山博司組(比叡山)



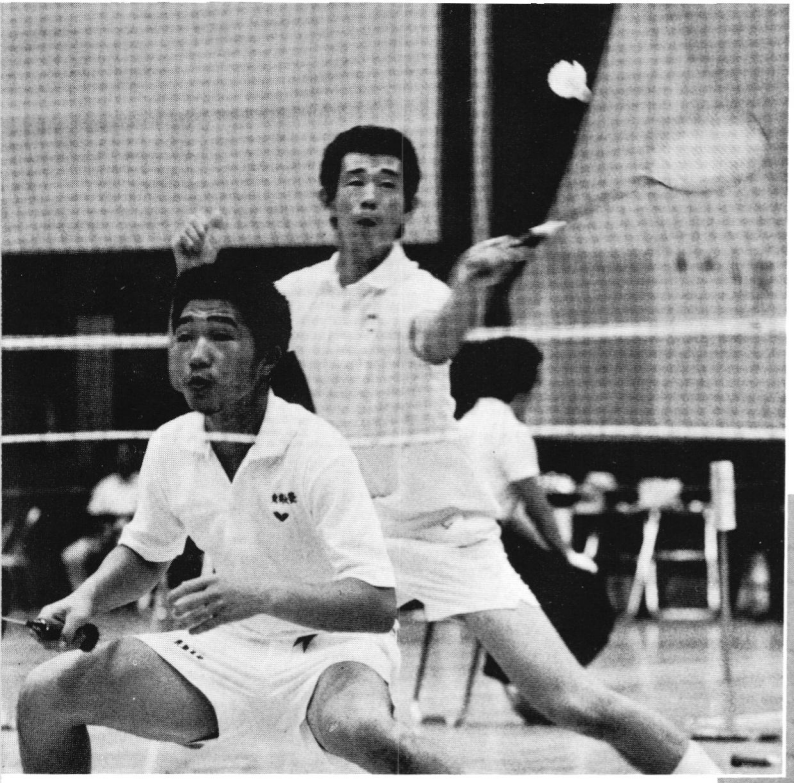
まったく危げなく優勝をかざった平久美子・河村茂美組(四条畷学園)



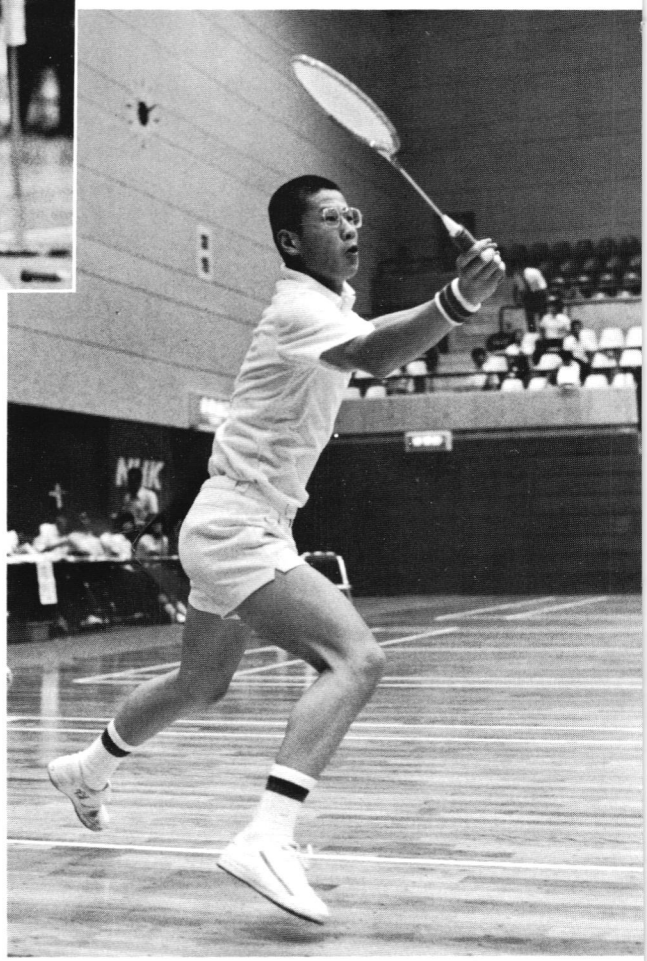
ダブルス3位・山下奈々子・葛西明子組(千葉学園)

2年生ながら2位にくいこんだ
末兼真弓・北田スミ子組(四条畷学園)



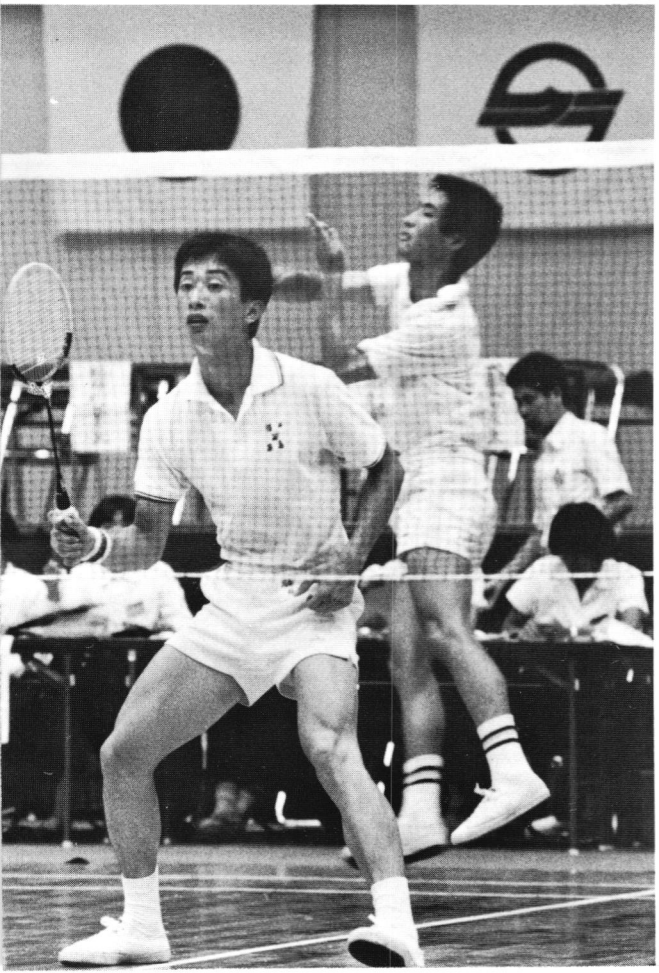


ダブルス３位・丹藤勇一・楠美誠悦組(東奥義塾)

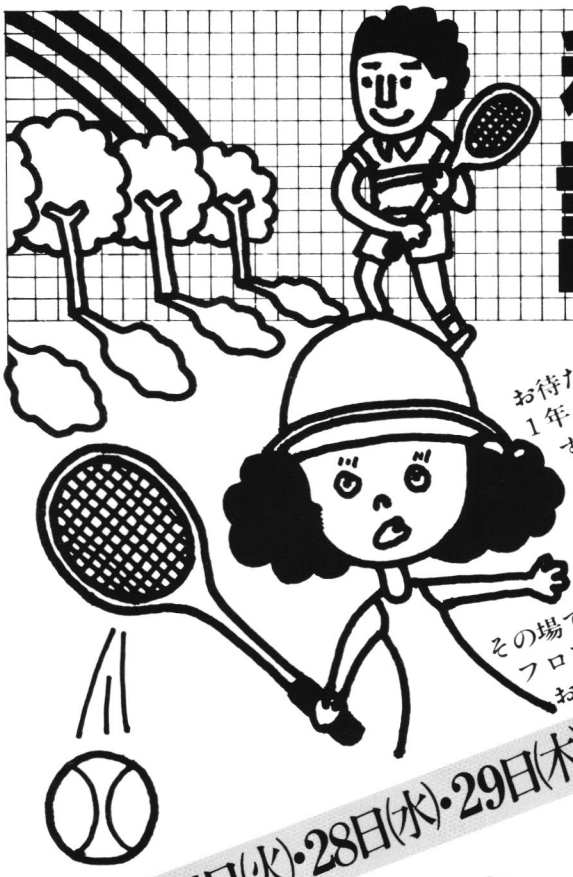


シングルス３位・宮本幸弘(九州学院)

ダブルス３位・玉村琢二・海道昌孝組(藤島)



秋の謝恩セール



お待たせしました。
1年ぶんの感謝の気持を
ずっしりつめこんだ、恒例
「秋の感謝セール」が今年もいよいよ登場！〝より良い品をより安く〟をモットーに、年に一度だけ行うとびきりの大バーゲンです。ラケットも、ウェアも、なにしろおトク。さらに、その場で当るスピードくじなどの特別企画もご用意。〝ありがとう〟の心をフロアいっぱいに散りばめました。期間は6日間限り！
お誘い合わせの上お早くどうぞ。

9月27日(火)・28日(水)・29日(木)・30日(金)・10月1日(土)・2日(日)の6日間！

年に一度の大バーゲン！

バーゲン・コーナー

お値段と、品を見て、思わずニッコリ！

ラケットから、セーター、ベスト、ウォーミングアップ（上・下）、シャツ、ワンピースに至るまで、損得ヌキの超特価でズラリ！年に一度の大チャンスです。もちろん、どの品も信頼のおける優良商品ばかり。この秋のテニス用品はこの機会に!!

スピードくじお楽しみ

その場でステキなプレゼントが当る！

お買上げのお客様には、お買上げ高に応じてスピードくじを。その場で当るお楽しみです。もちろん空くじはなし!!おトクなお買物をして、お土産までついてくるという嬉しい特別企画なのです。

特別割引コーナー

前から狙っていたヤツを手に入れる絶好機！

バーゲン・コーナーとは別に、対象外の一般商品も特別割引で!!以前から欲しいと思っていた品、まとめ買いをしたい品…などなど、ぜひこの機会に。じっくり選んでお気に入りのものを、どうぞ！

メーカー協賛企画

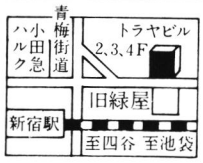
一流ブランドにチャレンジしよう！

さらに、各メーカーが協賛して贈る特別企画も登場!!
いずれも感謝をこめた魅力版で、迫力も充分。お目当てのブランドにアタックしましょう！

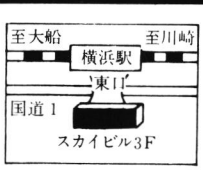


WINDSOR ウインザー ラケットショップ。

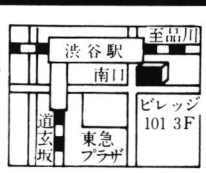
毎月曜日定休・祝祭日を除く
新宿店
東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2,3,4F ミドリ屋前) TEL 03-363-6848
●●●●営業時間／午前10～午後7時



年中無休
横浜店
横浜市西区高島町2丁目1番横浜駅東口スカイビル3階 TEL 045-461-1785 〒220
●●●●営業時間／午前10～午後8時



毎月曜日定休・祝祭日を除く
渋谷店
東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3階) TEL 03-464-9251～2
●●営業時間／午前10～午後7時30分



carlton

New Badminton Racket



●PHOTO カーボニック・ブラック

●PHOTO ニュートーナメント



威力壮烈!

20世紀最後の素材といわれる理想の繊維カーボン。繊維に対して直角の方向に、驚ろくべき強さをもち●たわみに富む●するどい弾性とすばやい反発力を生む●しかも耐久性に強い……という最高の条件を備えています。

metro

総発売元 メトロレジャー株式会社 〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)



好評発売中

BADMINTON RACKET

スポーツシューズを始め、スポーティンググッズの幅広い分野で今や世界を独走するadidas®。そのスポーツを知りぬいたadidas®から、いよいよ、バドミントンラケットが待望久しいデビューです。素材の持ち味をくまなく生かした各パーツ。バドミントンを徹底科学した機能的なフォーム。もちろん一流プレーヤーの「ここをこうしたい」という熱望をすみずみに取り入れての登場です。パワーとテクニックを見事に両立させた最新鋭の1本1本。いち早く馴染むのがライバルを泣かせる秘訣。

バランスの良さ。なじむグリップ。この軽さ。デビューが待たれたadidas®の1本1本。





トッププレーヤー対象

MODEL-FB 1000 ¥5,400〔ケース付・ガット別〕

⊙テーパードシャフト先細・手元太でロングなシャフト。思いきり振りきれ、素晴しい球離れが特長です。⊙フレーム 柔軟性と剛性をあわせもった合板フレーム。ガットが張りやすく、同時にガット張りによる変形がないのが決め手です。素材は特に厳選された高級木質材。⊙グリップ 手にしっくりと馴染む高級牛皮グリップ。●グリップサイズG2(太)・G3(中)・G4(細)
●重さ〔ガットなし〕L(120g以下)・M(130g以下)・H(130g以上)



プレーヤー&一般対象

MODEL-FB 2000 ¥3,400〔ケース・ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト ⊙フレーム やはり強度と柔かさを兼ねそなえた合板フレーム。吟味された高級材質の堅さがラケットの変形を防ぎます ⊙グリップ 牛皮を使用し触感、密着感に優れています。●グリップサイズ G3のみ
●重さMのみ



一般&ビギナー対象

MODEL-FB 3000 ¥2,500〔ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト⊙フレーム 丹念にセレクトされた木質素材の合板フレームで強度を確保しました。⊙グリップ グリップには手に馴染みの良い牛皮を使用 ●グリップサイズG3のみ ●重さMのみ

adidas®

MADE UNDER ADIDAS LICENSE

●お求めはadidas特約店で。

製造業者 KG 兼松江商株式会社 発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431 〒101 東京都千代田区内神田1-11-13(橋本ビル)☎03-295-5611

ふりだしに戻った台湾問題

混迷の国際情勢

強行採決→除名→抗議→採決無効……

多数決で台湾を除名

国際バドミントン連盟（IBF）は5月6日、第一回世界選手権大会開催地マルメ（スウェーデン）で年次総会を開き、多数決で台湾の除名を決定した。

加盟国の除名には四分の三の多数決を必要とするという連盟期約があり、この多数決決議は規約違反であるが、この規約をIBF会長のモーリン氏（スウェーデン）が押し切ったものである。これによって台湾は一九五七年以来二〇年間加盟していたIBFから去ることになった。

IBFへの中国加盟、台湾除名に関する論争は、一九七四年に中国がIBF加盟申請に際し、台湾追放を条件にしており、以来続いていたものである。

中国が加盟を申請

IBFが台湾除名を決議した直後、中国は加盟申請書を提出し、二ヵ月以内にIBF加盟メンバーから異議が出なければ自動的に承認される。

しかし、モーリンIBF会長が5月7日明らかにしたことによれば、中国から提出された加盟申請書が不備のため、来年5月ニュージーランドで開く総会にはかりたい、ということである。したがって来年5月まで中国の加盟は認められそうもないことになる。

台湾〝違法〟を訴える

IBFが台湾除名を多数決によって決定した件に関し、台湾は規約違反であるとして、IBF本部のあるロンドンの高等法院に訴えた。

IBF決議は〝違法〟の判決

台湾から提出されたIBF決議〝違法〟の訴えを審理していたロンドンの高等法院は、台湾の訴えをいれて、IBFに対し同決議は違法であり、したがって無効である旨通告した。

そしてIBFはこの通告を受け入れることとなり、台湾除名問題は再びふりだしに戻った。

この単純多数決による決定は連盟規約を無視し、モーリン会長が押し切ったものであるため、高等法院は規約に従わない決定は無効であり、法律違反であるという判定を下したことになる。

IBFというスポーツ団体に法の力が介入し、決定がくつがえされたことにより、モーリン会長の立場は微妙なものとなり、中国加盟に反対するヨーロッパ（とくにイギリス）勢の攻撃の矢面に立たされている。このためモーリン氏は台湾除名、中国支持のアジア勢の〝票固め〟に、各国を訪れており、日本に9月中旬来日することになっている。

この台湾問題については、法の力の介入により複雑な様相を呈してきており、本誌でもより正確なニュースのキャッチに努力し、追って誌上でお伝えしたい。

本誌別冊カレンダー

“The Badminton World '78 Calendar”

11月1日発行（予定）

デザイン一新!!　迫力あるカレンダー!!

ご期待ください

毎年皆様からご好評をいただいております本誌別冊カレンダーを今年も制作いたします。

一昨年はモノクロ、昨年はカラーで制作し、お届けいたしましたが、モノクロの迫力とカラーの美しさをそなえたものを今年はお届けいたします。撮影条件からカラーはどうしても迫力に欠けるようになりますので、今回はモノクロ写真を基本にし、日付や説明にカラーを配し、写真にも何色か使用する予定です。

また、従来の金具綴じによる製本方式を改め、アクリルタンバリン綴じを採用し、破ることなく毎月使用できるものにいたしました。インテリアとしても楽しめると思います。どうぞご期待ください。発行予定は左記のとおりですが、順次本誌誌上で詳しくお知らせいたします

◆78年カレンダー

▼発行＝11月1日予定

▼定価＝1000円（予価）

▼判型＝B4判・タンバリン綴じ、アート紙13枚、表紙2枚

▼収録選手＝銭谷、土田、小島、飯野、池田、栂野尾、湯木、栂野尾㈼、植野、徳田、プリ、デルフス、チュンチュン、ワジュディ、フローマン、キールストロムの各選手を予定。

▼頒布方法＝郵送による直販および特約スポーツ店、試合会場にて。お申込み方法については追ってお知らせいたします。

新ガッツ小島の体当り実戦教室 5

全日本制覇へ欲

●小島一平

●肩の故障からスタミナ作りに励む

オールジャパンの思ってみなかった敗戦で受けた傷心もいえ、一から出直しとトレーニングに入る。しかし、なかなか敗戦が頭から離れず、あの時にむきにならず冷静に試合を進めていれば、などと考えれば考えるほど悔しく、無念さ一杯の気持をトレーニングにぶつけた。

しかし、幸運だったのはオールジャパンで一年のスケジュールが終了したので、三カ月はまったくシーズンオフとなり、ゆっくり立ち直る期間が与えられたことである。

そして、シーズン開幕には順調に仕上がり関東学生選手権、東日本学生選手権に優勝。しかし東日本選手権の前に肩を痛め、スマッシュが打てなくなり、一時は棄権まで考えたほどだった。なんとかなるだろうと思いながら練習に打ち込むうちに、スマッシュが打てないものだから自然とラリーが長くなり、練習試合でも長い試合ばかりが続いた。これでは試合になったら今までの倍ぐらいの体力が必要と思い、一日に20キロ走った。とにかく、暇さえあれば走れ走れといった感じで、我ながら良く走り込んだなあと思う。

そのために、この優勝は今までとは違った意味で感激が大きく、それと同時に、多少の故障や、体調が悪くても、勝つ意欲を強く持てば必ずや道は開けるという自信がついた。

三年生にもなると余裕が出て、合宿なども思い切って練習に専念できるようになった。また、下級生の指導などと、一週間があっという間に過ぎる。一、二年生には有望な選手が多く、彼らが強くなってくれることも上級生としての責任であるが、それよりも自分自身が模範となり、何事も率先して行動することが彼らのためになると信じていた。彼らのことを強くなってほしい、強くなってほしいと思うほど厳しく指導したものです。

前にも述べたように、全身全霊を込めて一つのことに打ち込んでいると、常に不安感がつきまとい、何でもいいから体を動かしていなければ不安で仕方ないところまで追い込まれた。試合直前などは、極度の緊張のあまり吐き気がしたこともたびたびだった。これは現在も続いており、試合前にはリラックスも必要かもしれないが、そうではなく緊張感で口もきけなくなるという状態もまた好ましいのではないか。

次の相手がだれになるかと考える時は、決して良い結果は生まれず、まず自分自身をコントロールし、敵はあくまで自分であることを忘れてはならない。

一度チャンピオンになると、その後が大変な苦しみとなる。ということは勝って当り前、負ければ叩かれる。そして、多くの選手の目標となり全力でぶつかってくるから、気が抜けなくなる。だから、私が口ぐせのように言

うことは「負けても強くなり、勝っても強くなれ」ということである。そして一つ大事なことは同じ負け方を二度三度と繰り返さないことだ。その年の学生最後の全日本学生では、宿敵であった秋山先輩に見事ストレートで負け、当時は多少の思い上がりがあり、一ゲーム落としても大丈夫と思っているうちに焦り始め、秋山氏は狙い通りのショットがビシビシ決まる有り様で、どうにも参ったことがあった。秋田で行なわれた暮れのオールジャパンでも、またしても秋山氏に準決勝で敗れてしまい、苦い二連敗の思い出を作ってしまった。しかしベスト4に残ったことは自信につながり、また秋山氏が板垣善憲氏（トヨタ自工）を破って初優勝したことは、われわれにもオールジャパンの優勝が手の届くところにやってきたと感じてならなかった。「優勝できる」「優勝する」という確固たる目標を持つことができたのである。

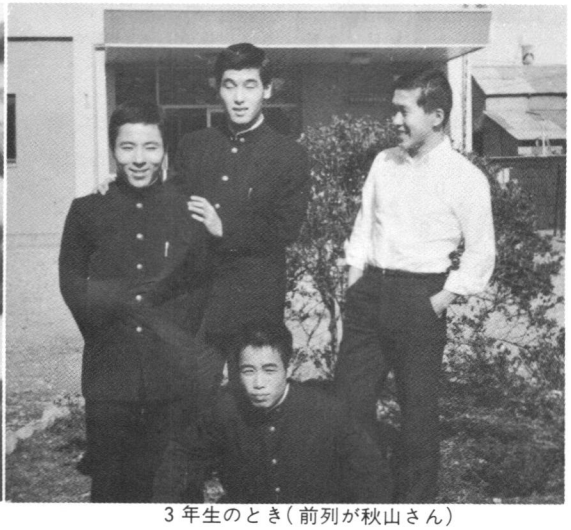
青春に、一つのものに打ち込むということは素晴しいことだと思う。バドミントンに足を突っ込んだ以上、忍耐、我慢で苦しい試練を克服していかなければならない。

常に努力している者は必ず報われ、チャンスをつかめるであろうし、たとえ目標を達成できなくても、それまでの過程がプラスとなるであろうことは間違いない。それが青春というものだろう。

●秋山氏の快挙から希望



3年生のときのリーグ戦にて



3年生のとき（前列が秋山さん）



3年生のオールジャパンで3位に



父兄・先輩・友人に見守られた華やかな開会式

第7回全国中学生バドミントン大会

男女ともに熊本が制覇

（熊本は三年連続三度目）

第七回を迎えた全国中学生バドミントン大会は、八月十五日から十七日にわたって、三重県伊勢市の三重県営総合競技場体育館で華々しく開催されました。結果は次の通りです。

◆男子

▽準々決勝

熊本 2 — 0 滋賀
石 2 15 15 9 15
丸山 2 15 15 10 0 15 0
西山 0

堺 2 15 15 13 10 0
竹端 0

神奈川 2 — 0 兵庫
大竹 2 15 15 10 12 0
吉永 2 15 15 10 12 0
藤本 藤原 0

鶴見 2 15 15 10 3 0
森 0

埼玉 2 — 1 新潟
坂本 0 5 8 15 2
中村 2 15 15 6 10 0
峰 2 15 15 6 10 0
遠藤 0

須賀 2 15 15 7 8 0
阿部 0

栃木 2 — 0 秋田
上野 2 15 15 5 13 0
猪瀬 2 15 15 5 13 0
川越 0

大島 2 15 15 12 11 9 15 1
石上 1

▽準決勝

熊木 2 — 0 神奈川
丸山 2 15 15 9 15 2 15
大内 1

本石 2 15 15 9 15 7 1
吉永 0

井上 2 15 15 8 6 0
原 0

栃木 2 — 0 埼玉
上野 2 15 6 15 5 1
坂本 0

猪瀬 2 15 15 7 6 15 5 1
中村 0

大島 2 15 15 6 1 0
峰 0

熊本 2 — 1 栃木
丸山 0 5 5 15 2
上野 2 15 15 2
猪瀬 2

▽決勝

熊本 2 — 1 栃木
石 2 15 15 9 15 7 15
丸山 2 15 15 10 0 15 0
西山 0

◆女子

▽準々決勝

滋賀 2 — 0 茨城
吉田 2 15 15 12 0
中川 2 15 15 12 11 0
渡辺 皆川周 0

宝田 2 15 7 11 12 1
皆川芳 1

熊本 2 — 0 福井
森本 2 15 15 3 8 0
志水 2 15 15 3 8 0
毛利 海道 0

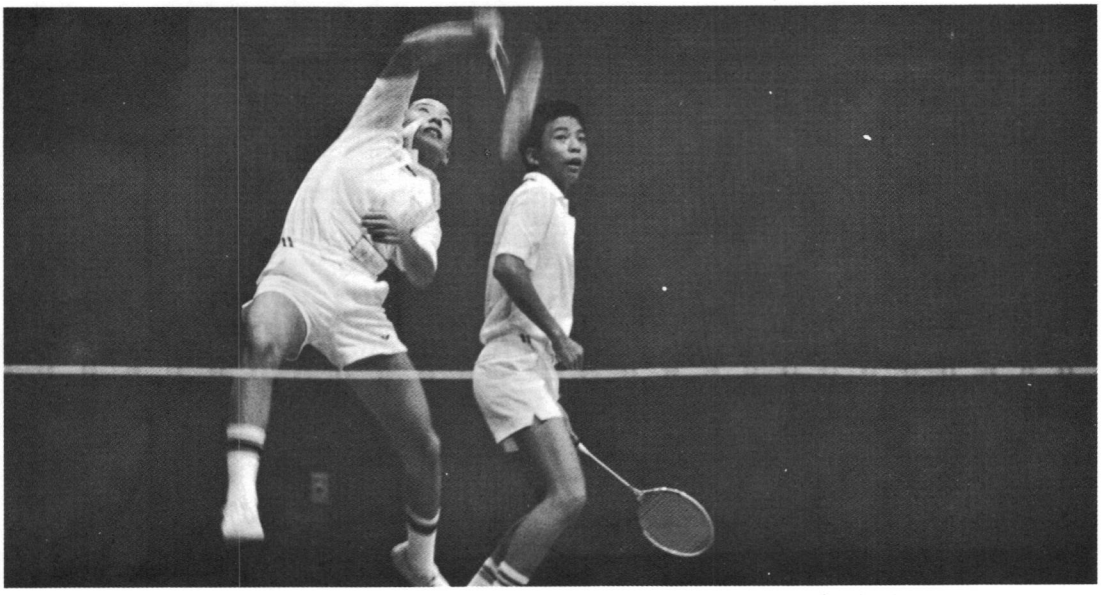
高崎 2 11 11 0 3 0
竜田 0

香川 2 — 1 埼玉
関 2 15 15 4 5 0
塩崎 2 15 15 4 5 0
新井 七条 0

井上 2 15 15 8 11 0
大島 0

堺 2 15 15 9 7 0
大堀 0

山内 1 4 4 11 12 9 2
川口 2



大内・吉永組(神奈川)

観戦記

伊藤基記

山内 1 (12—9 11—3 10—12) 1 佐野
北海道 2 (12—10 11—3 6—11) 1 西岡
佐藤 2 (15—5 15—18) 1 大阪
高橋 2 (15—11 15—5 11—6) 1 河原
藤永 1 (5—11 2—11 11—6) 2 松田
加藤 1 (12—10 11—3 6—11) 1 尾崎

▽準決勝
熊本 2 — 0 滋賀
森本志水 2 (15—2 15—3) 0 吉田中川
高峰 2 (11—4 11—7) 0 宝田
北海道 2 — 0 香川
佐藤高橋 2 (15—3 15—0) 0 神原中川
藤永 2 (11—1 11—2) 0 山内

▽決勝
熊本 2 — 0 北海道

森本志水 2 (15—1 15—7) 0 佐藤高橋
高峰 2 (11—1 11—2) 0 藤永
(熊本は二度目)

私は、審判長として臨席させていただく光栄に浴した。第一回の大会を東京でひらいた折の、大会要領の原案を何回も訂正した自分の原稿を出発前に遇然見つけだして、感激にふけっていただけに、第七回大会で、三十六都道府県の代表、監督コーチも含めて六百名に近い人口がフロアに整列し、略にそれに匹敵する父兄母姉知人学友の応援の方々が、観客席を埋める盛会振りをまのあたりみて思わず、眼頭があつくなった。その県の指導者の中でも、もっともすぐれた方と常々尊敬している先生方の監督姿が随所にみられるし、生徒達の真面目な眼ざしの中に、将来世界に向って羽ばたく力がこもっているのを感激しないわけにはゆかなかったのである。

果たして、その試合内容は、これが中学生かと思わせるほど、素晴らしい向上のあとを示していたと思う。「苗」はすくすくと育っていたのである。これこそ、日本バドミントン界の原動力であるという実感をつよく持った。

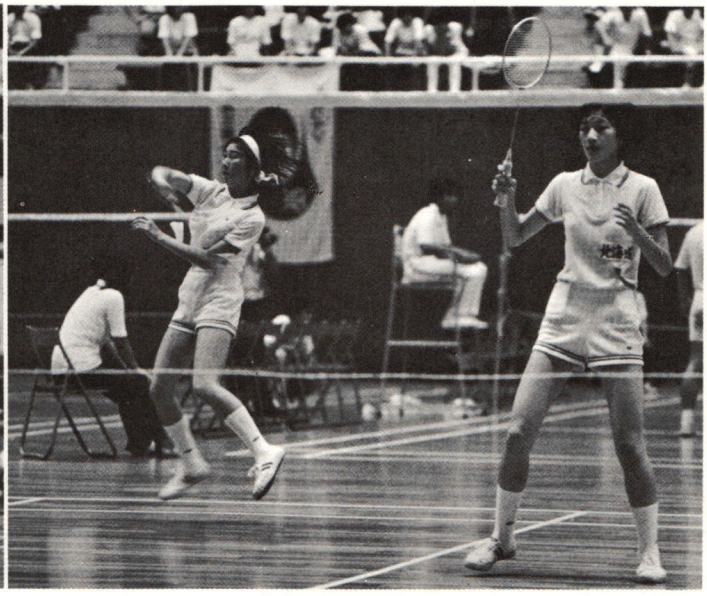
審判長という立場にあるために、大会の全般にわたって細かい、観察や分析をする余裕がなかったが、指導委員長として、気付いた点を二、三述べさせていただくことにする。

代表者会議の折に、昨年の実状から、サイド・コーチについて私は、それが、ルール上このましくないこと、エチケットとしてもよくないこと、気持はわかるが、逆効果になる場合が多いことを指摘して、注意を喚起しておいたのだが、残念ながら十分守られなかったようである監督のサイド・コーチがはじまったな、強まったなあ……と見ていると、きまって選手のプレーが縮まってゆくのが手にとるようにわかった。

監督の叱声や、理論コーチ、観客席からの他のコートを無視した応援が、逆効果になっているのをまざまざと見せつけられて、敗戦にうなだれる選手に同情を禁じ得なかった。この場で注意されて、技が急にうまくなることもないし、思うように動ける



河原・加藤組(大阪)



佐藤・高橋組(北海道)

ものでもない。プレーは常に「単独操縦」なのである。自動車学校の教官が、助手席についているように、監督コーチは、選手に手を添えてやることはできない。これはその場の試合成績に好結果をもたらさないばかりでなく、何か指図をうけなければ十分に動けない……その場、その場で、自分で判断して、全力をつくすプレーができない選手をつくってしまう。中学、高校と、素質と環境に恵まれた筈の選手が、大学にいって思うようにのびないという批判の声をきくが、大学では一人一人について、側で文句をいうものはないから、複座操縦のくせのついた選手は、そこで足踏みをすることになるのではないかと私は心配しているのである。

コートに出たら誰もたすけてはくれない、勝負のきびしさを子供の時から、心にしみこませることが、本当にその選手をのばすことであると私は信じて疑わない。文句をいう場所と、時を考える必要があると敢えて、苦言を提して置こう。心の中は煮えたぎっていても、そこはじっと我慢の……でなければならない。監督コーチの道もまたシビアである。唯単なる熱心、熱中は、時に熱狂に変る……こんなことを書くようでは、私も年をとったことをあかしているようなものかも知れない。

応援もただ声援し、手をたたけばよいというものではない。

強い相手を前にして、監督の指図を見ねばならず、応援には応えねばならず……まだそれほど心臓の強くない少年選手は、何をしているかわからないうちに、力みかえるばかりで、ポイントを失ってしまう。どうしたら、なるべく実力に近いものを大会のコート上で発揮できるかそれについて、反省してもらいたいと、国民的先輩として、若い指導者の方々に希望を託しておこう。

それにしても、伊豆三重県理事長を中心として、東海近県のスクラムは立派なもの、その大会の運営振りは見事というほかはない。

三重県のようにやろうとすると、これからひきうける県やブロックは大変だなあと……いらぬことまで心配してしまった。

ともあれ、世界のトップに向って、大きいステップが、この中学生大会を大きな土台として、今踏みだされているのである。



神原・中村組(神奈川)



大島(栃木)

いまうわさの……



SUPER RUSH

S-76 スーパーラッシュ

極細の特殊加工スチールテーパーシャフト使用。
反発力が一段と増し、抜群の攻撃力が生まれプレーヤーの持っている力を十二分に発揮出来るすばらしいパートナーが出現しました。

play with...
SunBatta

エツコのバドミントン・ライフ④

「相沢さんと組んでみないか…」

栂野尾悦子

暑い夏が過ぎ去り、十月に入ると、学校をあげて文化祭が始まります。一ヵ月も前から各クラスごとに準備にとりかかり、男子の役目は仮装行列の御車や舞台を作るのに、近くの竹やぶから竹をとってくること。女子は衣裳を縫ったり小物を作る。こうして練り上げた計画を本番で競い合うのです。苦心してでき上がった作品が成功した時、学校の屋上で食べたおにぎりが秋風と夕日の中でいっそうおいしく感じられました。

私はまぎれもなく普通の一高校生に戻っていました。自分の力はインターハイで実証できた。もうこれ以上続けても伸びる余地がどこにもないだろう。高校卒業したら幼稚園の先生になりたい。そう思い込んでいた私には、バドミントンへの未練はみじんもなく、私の中で進むべき道が決定づけられようとしていました。

インターハイで受けたショックもいつの間にかうすらぎ、友達とのおしゃべりを楽しんだり、映画を観に行ったり、早く帰った日は、リンゴとラジオをぶらさげて、すぐ裏にある海へ行き、砂山に腰をおろして、沈む夕陽をながめたりした平凡な毎日が続きました。また、私には通学電車の窓から田畑の四季の変化を見ることが一種のいこいのひとときでもあったのです。五月雨の中をすげ笠をかぶって田植えするお百姓さんの姿。秋になると、黄金の稲穂が輝き揺れて、赤とんぼがたそがれを舞う。一年の実りを刈り入れたあとの土の上に霜が降る。みぞれの日が冬を知らせる頃には、もう自分の進路をほぼ決めていたのです。

十二月も半ば頃、二水高校へ突然の訪問者に目を疑いました。全日本総合選手権（オールジャパン）シングルスで、高校生では史上初の二位という偉業を成し遂げた帰り道であるという相沢さんと、その監督である阿部先生だったのです。どんな用事かまるっきり見当もつかないまま、おそるおそるあいさつをしたのです。オールジャパンでの試合ぶりを聞いていくうちに、急に、「相沢とダブルスを組んでみないか……」という先生の声に、それまでは、彼女の輝やかしい戦績や、先生の理論や情熱に押しまくられ、すっかり敬服してうなずいていただけなのに一瞬、ポカンとしてしまいました。「わたしがですか？」そう聞き返したのも無理はありません。エッ私が？どうして！先生の言葉がはっきりと理解できないのです。それもそのはず、彼女は雲の上の人、実力は段違いなのですから。やれる限りのことをやった高校三年間を全集約した私への答えがインターハイでの結果だったのです。もうこれ以上伸びる要素がない、卒業したら、子供が大好きだから保母さんの勉強をしたいと決めていた矢先に、もう一度、バドミントンという字が目の前にアップで迫ってきた感じでした。私なんてとんでもない、とてもじゃないけど、一緒にやれる器ではないと変な自信があったにもかかわらず、のんきな私も、いささかあわててしまいました。

その後、たびたび、先生からバドミントンに関する意見や資料をぎっしり詰め込んだ手

紙が届き、その深さやむずかしい理論があまり理解できず、よけい委縮していたのもつかの間、今度は、高松の自宅に来られて、「一度新潟へ行って練習をしてみないか」といわれ、そんならどんなものかちょっと……と思ったのが運のつき、これが人生の別れ道になったのです。（あそこでちょっとだけ…なんて色気を出さなければ、とっくの昔に今ごろは、二人や三人の子持ちのPTAになっていましたね……）

さて、この私、ボストンバッグに練習着をつめこんで不安そうに見送る両親を背に一路新潟に向かったのです。クリスマスツリーやジングルベルの曲があちこちに流れ、浮かれ気分でいそいそ行き交う街の様子をよそに、新潟青陵の体育館の扉を開けた途端、すさまじい気迫に一瞬立ち止まったほどでした。そこには、先生から教えられ初めて見る、秋山さん、小島さんが数名の学生と合宿をしていたのでした。全日本のトップどうしのプレーを見るのは初めてでした。その中でも一つ驚いたことは、なわとびをしていて、ひっかかりそうになっても、決して止めてしまわず、どうにか続けようと、ひざを深く折り前かがみにつんのめりそうになりながら、そのうちにリズムをとり戻してしまうのです。そうしたトレーニングの姿勢がきっとあの気迫のプレーにつながっているんだなーっとおぼろげながら自分なりに解釈したのです。印象に残るひとコマでした。


いつもお茶目だったわたし

相沢さんはといえば、私が物珍らしげに見回しているうちに、シングルス、ダブルスとコートが狭いといわんばかりに走りまくっています。その後でちょこっと組んでやってみたダブルスでは、誰の目にも力の差がはっきりとわかったでしょう。まず筋力が劣っているために、体のスピードがなく、シャトルが死んでしまい、コースも甘いのです。インターハイの時より、今同じコートにいる彼女がますます大きく見えたものです。それに追い打ちをかけるようにびっくりしたことは、青陵の中学生が、フォアのストロークと同じようにスンナリ、ハイバックを打っているのです。湯木さんのハイバックを初めて見た時、離れ技かと思ったほどのあのハイバックを、こともなげに中学生が！あ然としてしまいました。

別世界をかい間見たような新潟のバドミントンを帰りの汽車に乗せて、私の心は興奮と冷静が入り混じっていました。しっかりした土台の上に築かれた次元の高いプレーへの感動とあこがれ、そして、自分の現実の力。スタートの時点ですっかり出遅れてしまい、トコトコうしろを走っているような今の私に、もし新潟でバドミントンをやるとしたらどれだけやれるのだろう…。その不安が、金沢駅に近づくにしたがい、いつしかやってみたいという気持に変わっていったのです。

次の日から打ってみたハイバック。見てきたばかりのイメージを頭に描き、何十本も何十分も打ってみたハイバック。しかし、タイミングがつかめずほとんどミートしません。足も手もバラバラ。もう一度バドミントンで自分がどこまでやれるか試してみよう、そしてその舞台に新潟を選ぼうと決心しつつ、しかしその日々は決してなまやさしいものではないことを、一本ごとのハイバックにひしひしと感じ取っていたのです。（つづく）


大の仲良しだったクラスメートと

男子——単は仲尾（法　大）、複は山本・高橋（日　大）
女子——単は関根（日体大）、複は米倉・石田（日女体大）

第二十回東日本学生選手権大会が七月五日から九日までの五日間、群馬県桐生市の市民体育館で行われました。

中央大の主力メンバー、日女体大の近藤小織選手の欠場もあって、やや盛り上がりに欠ける大会でしたが、その中にあって日大、山本・高橋組の進境、日体大、関根の安定性が特に光っていました。

結果は次の通りです。

◆男子シングルス

▽準々決勝
岩崎（日体大）2—0 平野（日体大）
仲尾（法大）2—1 高橋（日大）
山本（日大）2—0 細谷（中大）
工藤（日体大）2—1 鏑木（日体大）

▽準決勝
中尾 2（15—15、15—11、15—13）0 岩崎
工藤 2（15—15、15—12、15—5）0 山本

▽三位決定戦
岩崎 2（15—15、15—6、0—6）0 山本

▽決勝
中尾 2（15—15、15—6、2—15）0 工藤

◆女子シングルス

▽準々決勝
石田（日女体）2—1 大塚（日体大）
石井（日体大）2—0 大鷺（日体大）
原田（日女体）2—0 枝（日体大）
関根（日女体）2—1 米倉（日女体）

▽準決勝
石田 2（11—11、8—1）0 石井
関根 2（11—11、5—10）0 原田

▽三位決定戦
原田 2（11—11、7—4）0 石井

▽決勝
関根 2（11—5、1—1）0 石田

◆男子シングルス

▽準々決勝
西村（日体大）2—0 杉本
秋庭（日体大）2—0 金崎
仲尾（法大）2—0 中村（日体大）
佐藤（法大）2—0 工藤（日体大）

▽準決勝
中谷 2（15—15、15—6）0 中村
佐藤（日大）2—0 工藤（日体大）
山本（日大）2—0 岩崎
高橋（日大）2—0 北橋（日体大）

▽三位決定戦
中谷 2（15—15、15—10）0 西村
伊藤 2（15—5、15—10）0 秋庭

▽準決勝
仲尾 2（15—3、15—6）0 西村
山本 2（15—8、17—15）0 中谷
高橋 2（15—8、17—15）0 伊藤

▽決勝
山本 2（15—8、17—15、15—12）1 仲尾
高橋 2（15—8、17—15、15—12）1 佐藤

◆女子ダブルス

▽準々決勝
関根・大塚（日体大）2—0 石田・石井
米倉・日山 2—1 石田・藤井（日女体）
平野・水野 2—0 官野・福原（東女体）

▽準決勝
関根・大塚 2（葉権）0 枝・徳永
米倉・石田 2（15—7、8—15、15—8）1 平野・官野

▽三位決定戦
関根・大塚 2（葉権）0 枝・徳永

▽決勝
米倉・石田 2（15—11、15—11）0 関根・大塚
平野・官野 2（15—0、9—15、15—11）1 枝・徳永

▽準決勝
上野・枝 2（15—8、15—6）0 山本・岩崎
島田・徳永 2（15—11、15—13）0 中尾・工藤
（日女体）

ベテランチーム定期戦
宮城×東京

去る八月六日、宮城ベテランの会と東京ベテランの会の、親睦をかねた定期戦が、宮城県秋保温泉にある秋保森林スポーツ公園で行われました。

宮城チーム 7（男3—4、女4—3）7 東京チーム

〈男子〉
井上・梅田 2（11—6、11—0）0 藤原・青野
佐藤・小林 2（12—11、11—6）0 下村・花岡

〈女子〉
伊藤・内田 2（8—11、11—12、11—8）1 会田・千葉
菅原・栗田 2（8—11、5—11）0 蘇武・佐藤健
武藤・山川 2（5—11、4—11）0 尾形・米田
近藤・林 2（1—11、1—11）0 浅沼・柏原
中村・大久保 2（11—3、11—2）0 植野・木村

真壁・大久保 2（11—2、11—0）0 真山・金田
竜崎・前川 2（9—11、11—0）0 佐藤光・武田
大関・根岸 2（6—11、8—11）0 久保・沼田
田中・小林 2（11—1、11—0）0 黒須・大木
長井・横田 2（11—9、12—10）0 藤原・佐藤弘
大関・原田 2（12—10、11—7）0 菊地・真山

役員・選手一丸となって成功!!

学生らしい真摯なプレーに感激

北海道新聞・荒島敏幸

第一回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会が、7月30・31の両日、北海道旭川市の旭川工業高等専門学校体育館で行われた。

参加校は、遠来の佐世保、福井など五高専に、地元北海道の三高専を加えた八校と、事前調査段階での予想を下回ったが、参加全選手は、全国高専バドミントン選手権大会の栄光と伝統の礎を築こうと、学生らしい真摯なプレーに終始、大成功裡にその第一歩を記した。

そして、団体では宮城高専が、また、個人シングルスは小林俊仁（旭川）ダブルスは山本和徳平間次男（宮城）が晴れの初代チャンピオンの座に輝いた。

▼団体戦▽準決勝

長岡 2（複 1―0、単 1―1、1 釧路）

宮城 2（複 1―0、単 2―0、0 佐世保）

▽決勝

宮城 2―1 長岡

永野 2（15―1、15―7）0 木了

昆野 0（15―3、11―15、2―15）2 牛腸

平間 2（15―11、15―5）0 佐藤

太田 0（4―15、5―15）2 本間

▼シングルス▽準々決勝

本間 2―0 山本（長岡）

小林 2―0 吉井（旭川）（苫小牧）

池 2―0 小山（宮城）（福井）

平間 2―0 小山（宮城）

▽準決勝

小林 2（15―4、15―7）0 本間

池 2（15―4、15―2）0 平間

▽決勝

小林 2（15―4、15―11）0 池

▼ダブルス▽準々決勝

池 永野 2―1 昆野（宮城）

小林 2―1 昆野（旭川）

阿部 吉井 2―0 牛腸（苫小牧）（長岡）

佐藤 本間 2―1 山田（釧路）

山本 平間 2―0 橋口（佐世保）（宮城）

▽準決勝

池 2（15―5、15―17）0 阿部 吉井

小林 山本 2（15―4、15―7）0 佐藤 本間

▽決勝

山本 平間 1（15―4、15―6、10―15）1 池 小林

○…現在、国内には国、私立を合わせ、六十四校の高専が設立されており、このうちの三十八校が「部」の存在は別として、何らかの形でバドミントン競技に取り組んでいるそう。こうした普及の度合いからみて全日本高専大会の開催は、時間の問題とされていた。

たまたま昨年、長岡高専の肝入りで開かれた東日本高専大会が、その導火線の役割を果たしたものだが、並々ならぬ苦労と、紆余曲折をたどりながら、せっかくスタートさせた〝東日本〟を発展的に解消、今回の〝全日本〟へ肩代りさせた関係者の英断に、まず、敬意を表する次第。

○…生みの悩みとか、苦しみというものは、どんな大会でも、直接それを手掛けた人でなければ、本当に判ってはもらえない。それが〝東日本〟とか〝全日本〟というように大会規模が大きくなればなるほど、その負担は増大するもの。今回の〝第一回大会〟も例外ではなかった。

参加問題一つをとっても、事前申込み調査の段階では、九州最南端の鹿児島高専をはじめ、四国の高松高専、山口の徳山高専などが〝ぜひ〟と、旭川大会への参加を希望（というより強い意思表示）していた。

ところが、大会直前になって、エントリー十二校のうち、これら四校が、諸般の事前から、やむなく参加も辞退しなければならなくなった。

しかし〝案ずるより生むが易い〟といっさら、チト語弊があるかも知れないが、こうしたアクシデントにもげず、大会事務局をあずか旭川高専教職員の熱意と旭川地区バドミントン協会教員の協力で、第一回大会は、見事、大成功を収めた。

もちろん、大成功の主役は、技術面はさておき、終始、真摯なプレーで大会そのものを盛り上げた参加選手諸君であることは言をまたない。特に諸君らの礼儀正しさと、フェアな試合態度は見ていても気持ちが良く、地元の高校生にすばらしいお手本を示してくれた。大いに感謝。

こうして、役員、選手一丸となっての成功は、第二回、第三回―未来永劫に続くであろうこの大会の隆盛を如実に物語っていた。

全日本高専バドミントン選手権大会万歳！


バブル爽快! サントリービール
サントリービール純生®
SUNTORY
BREWED
BEER
純生
BREWERY

談話室

梅野尾さんのすべてを知りたい

私は梅野尾悦子さんのファンなのですが、少しでも多く梅野尾さんのことを知りたいので、梅野尾さんの特集や、いろいろなことについて教えてください。

梅野尾さんの練習方法などもお願いします。

（東京都足立区・岡田美佐子）

▼好評連載の「エツコのバドミントン・ライフ」に少女時代から順に紹介されていきます。毎月楽しみにしていてください。練習方法などもしだいに明らかにされていくでしょう。

読みごたえがでてきた

首を長くして待っていた6月号が届きました。というのも4月号以来の「新しいバドミントン界」が大いに気に入っているからです。すなわち、表紙のデザインがスマートでよいこと、6月に6月号が着くこと、増ページのせいもあって内容が充実した感じで読みごたえがあること……等がうれしく思われます。今月号も、先月（5月）の大会の記録がのっているのでニュースとしての価値があると思います。同様に、6月にある大会の予想がのっていることもすばらしいと思います。また小島一平さんの実戦教室など連載物も確実に（?）のっていますし、ともかく「雑誌」としての読みごたえがあるので、いつも願っていたような、他競技の機関誌に比べて、負けない「バド界」に大きく近づいたような気がして気をよくしている次第です。今後もバド男の充実・発展のため頑張って下さい。

（岡山市西大寺・岡本次郎）

▼連載の充実とニュースの敏速・確実化にいま力を入れています。今月号は編集スタッフが、インターハイ、全日本教職員、全国中学を回って、それぞれのニュースを盛り込もうとしたために、約三週間ほど遅くしましたが、あしからずご了承ください。

三つの問題

いま一般の高校（とくに公立）では、大きな問題を三つかかえているような気がします。一つは高騰したシャトルの問題、二つ目はコーチおよび指導者の不在、三つ目は学業とクラブの両立。この中でとくに二つ目の問題では、練習の配分などで、いったいクリアーの練習などをどのくらいやったらよいのかわからず、つい毎日試合中心、オールフリー中心の単調なものになってしまいます。そこで本誌で高校生や社会人の練習例を特集してもらえないでしょうか。市販されている本には、ストロークのしかたなどは詳しく書かれているが、練習の例などはあまり書かれていません。

（兵庫県西宮市・谷山令一）

▼小島一平さんの連載「体当り実戦教室」にも学生時代の練習方法が述べられていますので参考になると思います。特集は体勢をととのえてじっくりとやりますので、もうしばらくお待ちください。

◇今回採用の皆様には、㈱ゴーセン提供のスポーツソックスをお贈りいたしました。

公示

日本バドミントン協会

▼昭和53年度シャトル、ネット、ポスト、ラインテープの検定について

(1)日時　昭和52年10月9日10時から

(2)場所　茗台中学校体育館
東京都文京区春日2—9—5（地下鉄茗荷谷駅下車徒歩7分、都バス小石川四丁目下車徒歩2分）

(3)提出数量　**シャトル**一銘柄につき（水鳥、陸鳥は4打、合成は6打）
ネット一銘柄につき2張
ポスト一銘柄につき2組
ラインテープ一銘柄につき2コート分

(4)規定　本会用具検定規定による

(5)検定料　**シャトル**一銘柄につき二〇、〇〇〇円
ネット、ポスト一銘柄につき二〇、〇〇〇円
ラインテープ一銘柄につき一〇、〇〇〇円

(6)申込期限　昭和52年9月30日15時まで

(7)申込先　東京都渋谷区神南1—1—1　岸記念体育会館内　日本バドミントン協会事務局
03-467-3111
内線351

▼昭和53年度ラケット、ウェア、シューズ、ストリングスの審査について

(1)日時　昭和52年10月10日(日)11時から

(2)場所　岸記念体育会館会議室

(3)提出数量　ラケット、ウェア、シューズ、ストリングス一銘柄につき2点
ポスト一銘柄につき2組
ラインテープ一銘柄につき2コート分

(4)審査料　一銘柄につき二、〇〇〇円

(5)申込期限　昭和52年9月30日15時まで

(6)申込先　東京都渋谷区神南1—1—1　岸記念体育会館内　日本バドミントン協会事務局
03-467-3111
内線351

大会スケジュール

昭和52年大会予定カレンダー

◆国内◆

▼すでに行われたもの

第8回全日本女子チャンピオンズトーナメント（4・24）
▽第27回全日本実業団選手権大会（6・17～22大阪・京都）
▽第28回全国高等学校選手権大会（8・1～6倉敷）
▽第16回全日本教職員選手権大会（8・8～12下関）
▽第7回全国中学生大会（8・15～17伊勢）
▽第3回全日本男子オールスターダブルス（8・28東京）
▽第20回全日本社会人選手権大会（9・15～18真岡）

▼これから行われるもの

▽第32回国民体育大会（10・3～6青森県浪岡）
▽第26回全日本学生選手権大会（11・1～7鳥取）
▽昭和52年度全日本総合選手権大会（12・14～18東京）
▽第5回全日本実業団対全日本学生対抗（1・16東京）
▽昭和52年度全日本総合選手権大会団体戦（2・25、26東京）
▽第9回全日本女子チャンピオンズトーナメント（2月東京）
▽第6回全国高等学校選抜競技会（3・19～21奈良）

◆国際・海外◆

▼すでに行われたもの

▽第1回世界個人選手権大会（5・3～8スウェーデン）
▽ニュージーランド・オーストラリア招待（7月中旬～下旬）
▽第6回日中親善試合（7月中旬または11月中旬～下旬東京）
▽オーストラリア・オープン（8・27～9・2）
▽カナダ交流試合（未定）

▼これから行われるもの

▽カナダ・オープン（10・27～30）
▽第8回世界女子選手権（ユーバー杯）大会アジア地区予選対韓国戦（10・23、東京・台東区）
▽スウェーデン・オープン（1・6～8）
▽デンマーク・オープン（3・8～11）
▽第68回全英選手権大会（3・15～18）

◎ユーバー杯大会アジア地区予選対韓国戦に勝つと3月31日までに、マレーシア対インドの勝者と、アジア地区決勝を行う。

編集室から

◆大変遅れて申し訳ありません。インターハイ、教職員大会、中学生大会……Etcと続いたハードスケジュールのため、やや放心状態気味になってしまいましたが、やっとここに「9月号」をお届けいたします。

◆熱気が渦巻く〝インターハイ〟〝中学生大会〟は、やはり真夏にふさわしい祭典でした。暑さに参っていたのは先生方や、父兄、卒業生の応援の人達と、役員の方々で、当人達は案外ケロッとした顔をして、若さの賜を見せてくれました。

◆これからも、全日本社会人、国体、全日本学生と大会スケジュールは目白押しです。上記の大会スケジュールをご参照のうえ、お近くの方は是非ご観覧ください。

◆好評いただいております写真集〝**ヨーロッパ選手にみる実戦テクニック**〟申し込みご希望の方はお早めに本誌編集部へどうぞ!!

◆全国各地からのお便りを、お待ちしています。楽しいサークルの話、「バド界」および協会への意見、小さな大会の記録などどしどしお寄せください。

◇便利な定期予約購読をどうぞ◇

■バドミントン界は、わが国唯一の専門月刊誌です。一般の書店では販売しておりませんので、ご購読ご希望の方は、本誌巻末とじ込みの振替用紙でお申し込みください。

■本誌は1部 300円ですが、1年間予約なさいますと、3600円のところを3000円に割引きとなりますので、便利で割安な定期予約購読をご利用ください。また日本バドミントン協会登録会員の方は、さらに 200円割引きとなり2800円です。

■お申込み方法はかんたんです。巻末とじ込みの振替用紙に必要事項をご記入のうえ、お近くの郵便局から代金をお振り込みください。手数料はかかりません。

バドミントン界　通巻第95号　1977年9月号　定価 300円

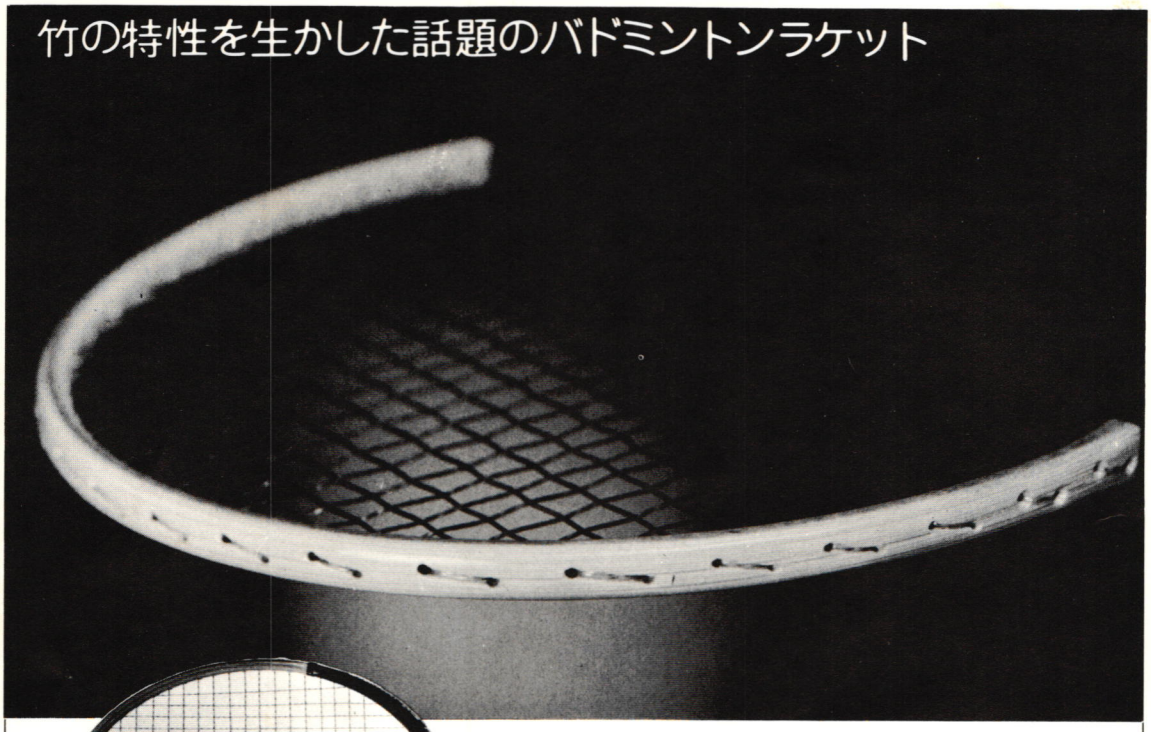
©1977　無断転載を禁ず

昭和52年9月1日発行
編集人／赤星　三樹
発行人／秦　浩

発行所・日本バドミントン協会
郵便番号150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111（代表）内線351
振替　東京5－32193（協会）　東京5－9525（編集部）

うなる打球/格調のバンブー

竹の特性を生かした話題のバドミントンラケット



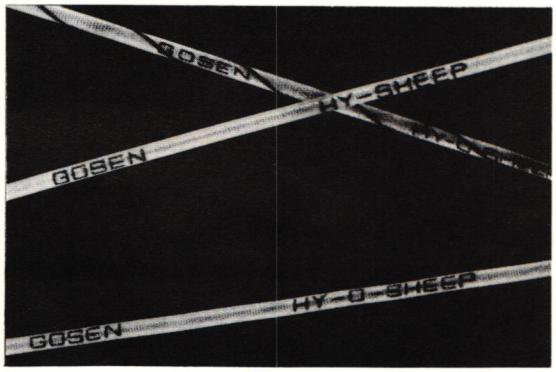


Hy-Thomas

No. B45 ハイ・トーマス(バンブー) ¥4,500　★最高級選手用ロングテーパーシャフト フレーム・カバー付



最後まで勝ち抜くもの/品質保証のビッグなガット





HY-O-SHEEP

No. 1090/1091 ハイ・オー・シープ ¥600

(輸入特殊ガット最高級品選手用 アンバー・青スパイラル)



HY-SHEEP

No. 1080 ハイ・シープ　¥400

(選手用 アンバー・赤・青)

株式会社ゴーセン
■本　社●大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816 代
■東京支店●東京都台東区蔵前4-14-2　☎(03)862-6576 代
■福岡営業所●福岡市中央区薬院1-4-8　☎(092)712-5247 代



カーボネックス7登場。

おんなは愛嬌、ラケットはパワー。

カーボン・シャフトの先端に、特殊アルミ合金のフレームを持つ新鋭ラケット、カーボネックス７の登場です。カーボン・シャフトの強力なバネ力と、特殊アルミ合金フレームとの力バランスが、すさまじいスマッシュを生みだします。スピードは抜群。そのうえ、スイート・スポットが広いので、シャトルを確実にとらえます。世界の一流プレイヤー達が、力から技へそしてまた力へと移ってきた現在、カーボネックス７はまさに時代への解答。すでにあるウッド・フレームのカーボネックス３とともに、あなたの武器にしてください。

●日本初のこと――このラケットにはRとXがあります。Rはレギュラーでスナップ打法用。Xはエキスパートでフルスイング打法用です。

B-8300 Carbonex7

●カーボネックス セブン《新製品》……￥7,700

YONEX